

# 小諸市調査報告と提言

～障害のある子ども達をめぐる  
子育て・子育て環境の実態調査を通して～

2014(平成 26)年度 12 月

明治学院大学社会学部社会福祉学科

中野ゼミ



## はじめに

私たち社会学部社会福祉学科3年の中野ゼミでは、2014(平成26)年度に長野県小諸市地域を通し、障害のある子どもたちをめぐる子育て・子育て環境の実態調査(8月)と訪問調査(9月17日～19日)を行った。

報告書内容は、実態調査結果と訪問調査の概要の報告、および提言です。不十分な点多々あると思う。目を通していただき、ご意見・ご助言いただきたい。

私たちに貴重な学びの機会を与えて下さった小諸市、小諸養護学校をはじめ関係者のみな様に心より感謝申し上げたい。

## 調査の動機

私たちのゼミには障害児教育に関心があり、特別支援学校教諭を志しているゼミ生も多くいる。2年次のフィールドワークでは夏季休暇中に障害児の余暇支援活動を行い、障害児の余暇活動の場が制限されていることを知った。そこから、障害児あるいは保護者はどのようなニーズを抱えているのか関心を持った。

2013年10月に実施された東京都A区に在住する就学前児童の保護者、小・中学生の保護者、中学生本人を対象とした『子育て支援に関するニーズ調査』について知る機会があった。私たちは3年次の春学期に、障害児の保護者に焦点をあて、マイノリティである障害児の保護者のニーズを捕らえてみることにした。A区の全数調査の結果と障害児の保護者との回答の傾向には差があった。具体的には、子育てについて、障害児の保護者は「楽しいと感じる」が全体の半数の割合であった。また、障害児の遊び場としての場所は『自宅』が80%以上と最も多かったが、区全体では『自宅』とともに公園・児童遊園』『小学校の校庭解放』といった地域資源の活用も多くみられた。さらに、区全体・障害児の保護者ともに『子どもの進路や進学のこと』が不安悩みとして最も多く共通しているが、就学後障害児の保護者の不安や悩みの割合が全体の結果より全体的に高くなっている等の状況も把握できた。

そこで、A区よりも人口が少なく、子育て・子育て環境も異なるのではないかと考え、ご協力を得られた長野県の小諸市では調査結果にどのような差が生まれるのかという新たな関心も湧いてきた。以上のことから今回の調査の実施となった。

## 調査目的と方法

調査のねらいは、小諸市における障害のある子ども達をめぐる子育て・子育て環境の実態を把握し、その特徴を捉えて考察し、提言を試みることである。

調査方法は2つの方法をとった。まず1つはアンケート調査です。特別支援学校のご協力を得て、2014年8月5日に小・中学部の保護者の方々にアンケートを配布(85部)し、留め置き調査の形をとった。9月17日に回収、回収率は61.2%であった。

2つ目は現地での聞き取り調査を行った。小諸市役所では、教育委員会より次世代育成施策及び障害のある子どもの施策についての聞き取り調査、小諸市子どもセンターおよび社会福祉法人小諸学舎では、児童館・在宅支援サービスなどの実践現場の訪問(見学)と担当者から取り組み、工夫等の聞き取り調査、そして特別支援学校では、実際に教育の現場を見学し、学齢期の子育ての現状を調査した。

以下、アンケート調査結果と現地聞き取り調査の概要および感想、提言を報告する。

3年ゼミ:新井理沙子・榎本くるみ・上小牧瑞奈・香山朋範・斉藤佳緒里・酒井真有子・酒寄茜・佐藤環・孫遠偉・徳田一磨・星野玲奈・堀内清士朗・松本潮美・吉村春香

## 「子育て支援に関するニーズ調査」

- ・調査期間： 2014年8月末日～9月末日
- ・調査対象： 小諸市居住の障害のある子どもが通学する特別支援学校（小・中学部）の保護者アンケートを配布（85部）。留め置き調査。9月17日に回収、回収率は61.2%。  
※回収アンケートのうち、13.5%が小諸市内居住者であった。多くが市外居住者であった。本来であれば、小諸市に限定した集計結果を報告すべきであるが量的に少なかったため、市外者の集計結果も含めて比較する中で、小諸市居住者のニーズについて捉えることを試みた。

### 〔小諸市に居住している保護者のニーズ〕

○アンケート結果小諸市内（12歳以上・12歳未満どちらも含む）

#### 問2. 回答者のお子さんの性別・年齢

性別はすべて男性。

年齢は8歳が1名、9歳が1名、10歳が1名、11歳が1名、13歳が3名であった。

#### 問3. きょうだい数

きょうだい数は以下のようなものになった。

1人→3人

2人→2人

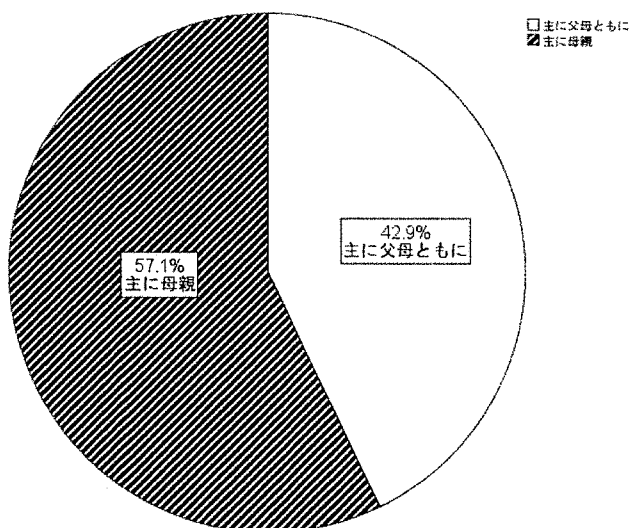
3人→2人

#### 問4. 回答者の性別・年齢

性別は全て父親である。

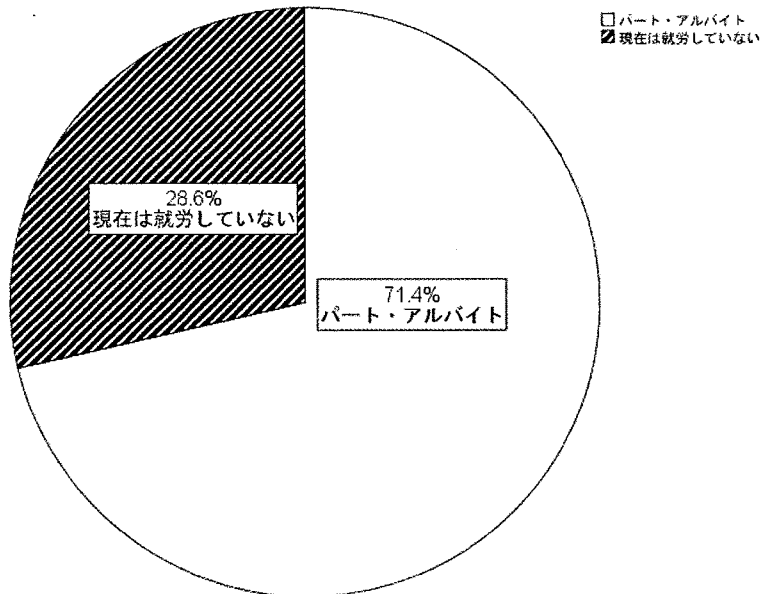
記入者の年齢は30歳が3名、40歳が3名、50歳が1名であった。

#### 問5. 子育てを主に行っている人



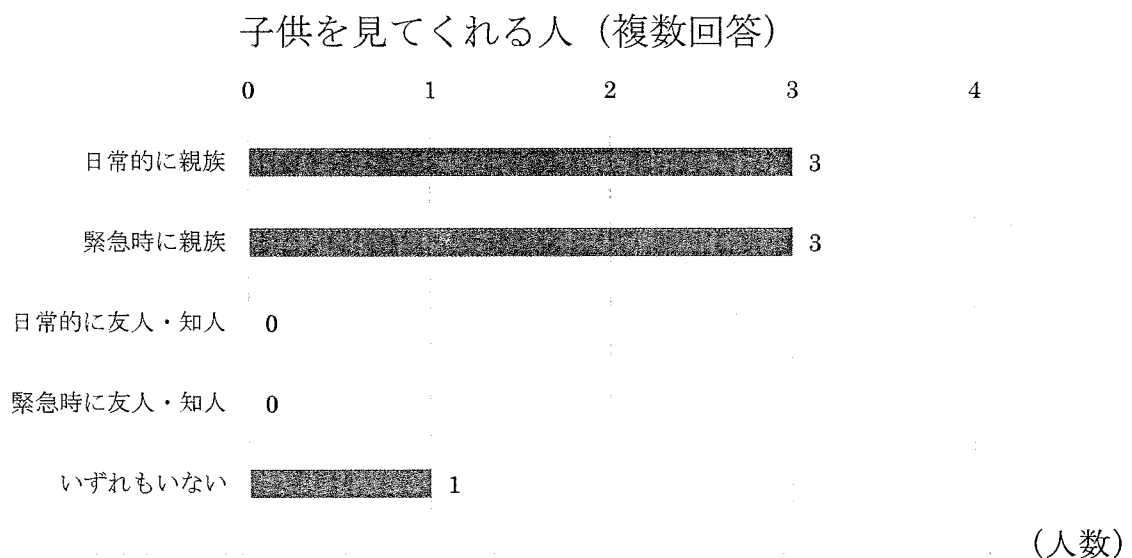
グラフを見てみると子育てを行っているのは主に母親であることがわかる。今回は 7 人という少ないデータのもと行ったためあまり確証性はない。今回データにはないが、祖父母が子供の面倒を見ている可能性もあるかもしれない。

## 問6.就労状況



パート・アルバイトをしている割合が高く、また現在就労していないといったケースもあり経済的に厳しい状況がグラフから伺える。

## 問6-②.

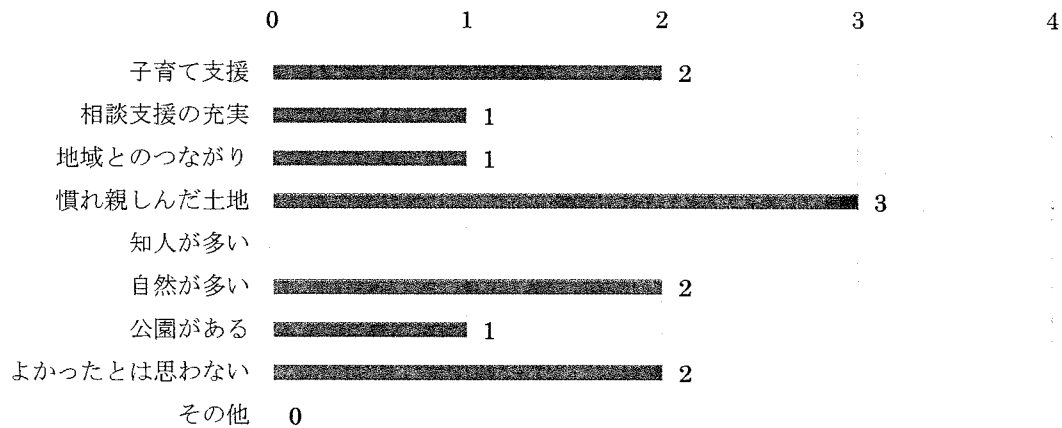


基本的に日常的・緊急時ともに親族が子供を見てくれるようである。友人・知人が見てくれるケースがあまり見られない。

(7人中6人が回答)

問7.

子育てをする上でよかったと思う点（複数回答）



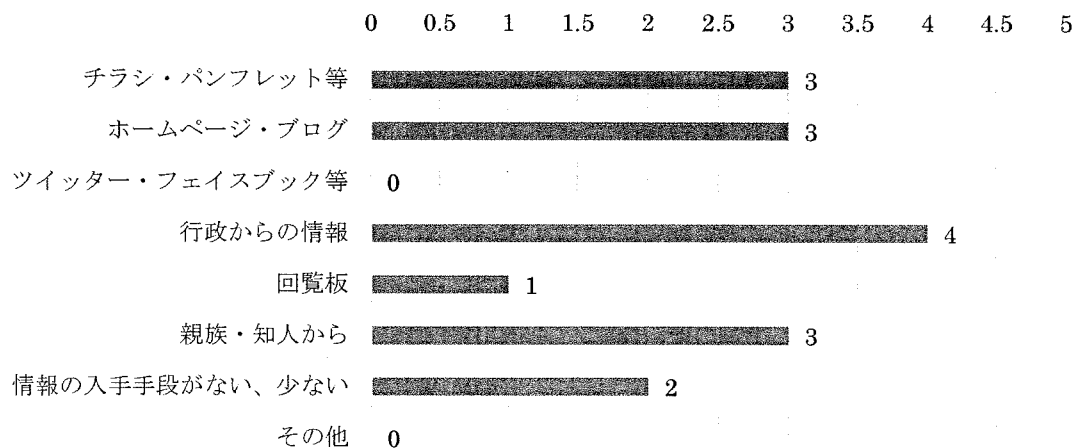
（人数）

一番高かったものとして「慣れ親しんだ土地」という項目で、親しみのある地域故に良いと考える人が多い。そのほかにも「子育て支援」や「自然が多い」といった理由でよい地域だと考える人もいる。逆に「知人が多い」と回答した人は一人もいなかった。また、「よかったとは思わない」と考えている人もいることがグラフからわかる。

（7人中6人が回答）

問8.

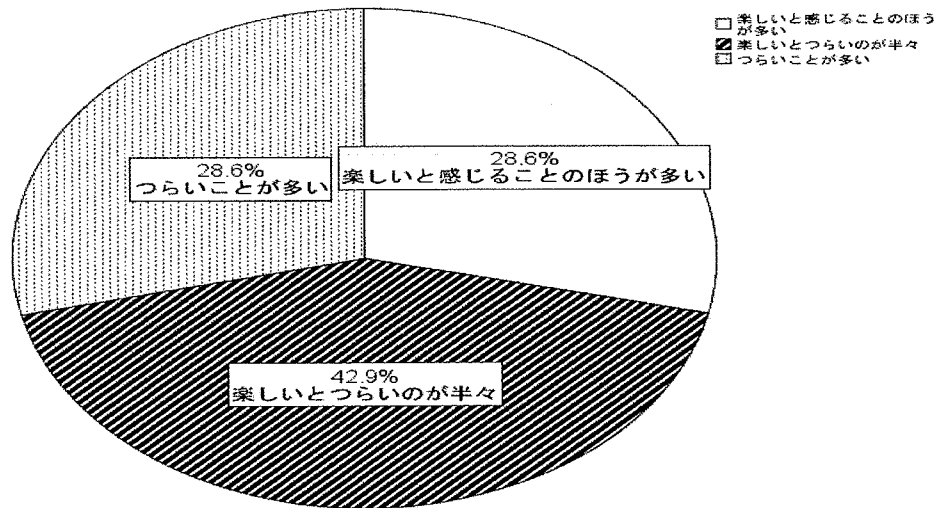
地域の子育て支援サービスの情報入手方法（複数回答）



（人数）

情報の入手は主に行政からのものが多いことがグラフから分かる。  
Twitter・フェイスブックと言った SNS 等を利用した情報提供はあまりおこなわれていないことが分かる。

問9. 子育ての感じ方

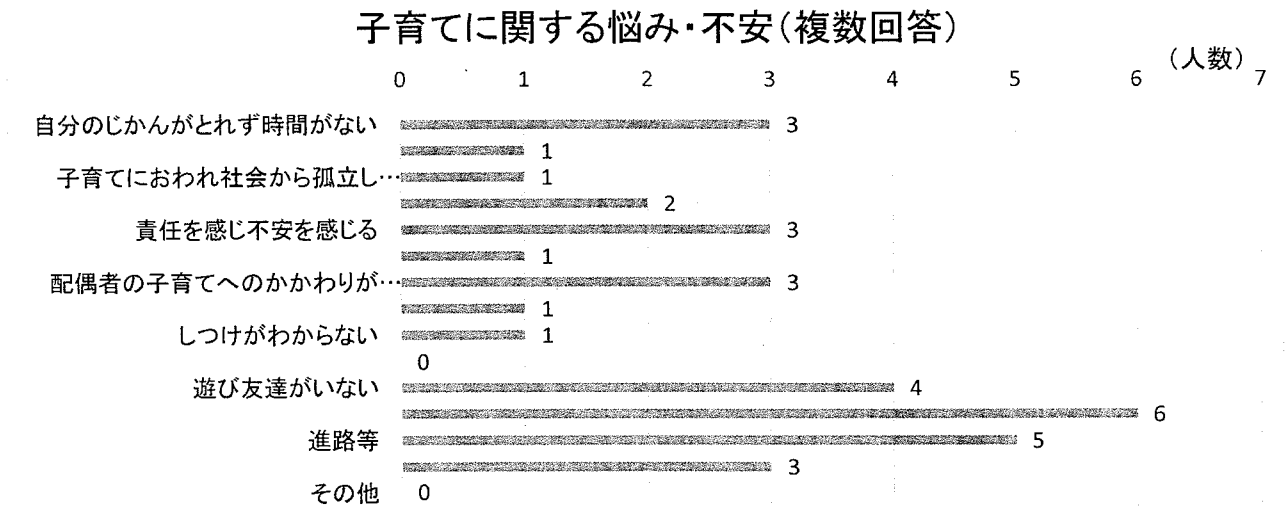


※人数としては→楽しいと感じることのほうが多い：2  
 →半々：3  
 →つらい：2

楽しいと思う時もあるが辛い時もあると言った意見がそれぞれ半々であることがわかる。

問10. 子育て上での不安や悩み

全員が「ある」と回答。



問10-①.

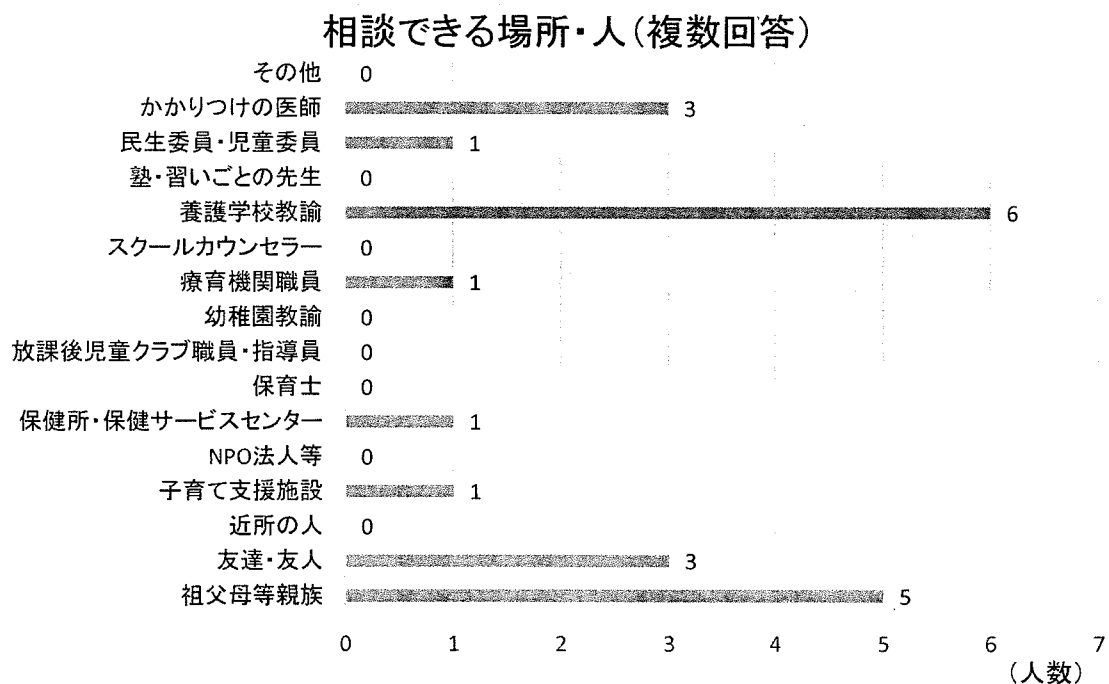
※「…」は「奪われているように感じる」と「少ない」である。

グラフを見る限り主に健康上の不安と進路の不安、そして遊び友達がいらないことがあげられる。

# 問 11.子育ての相談相手

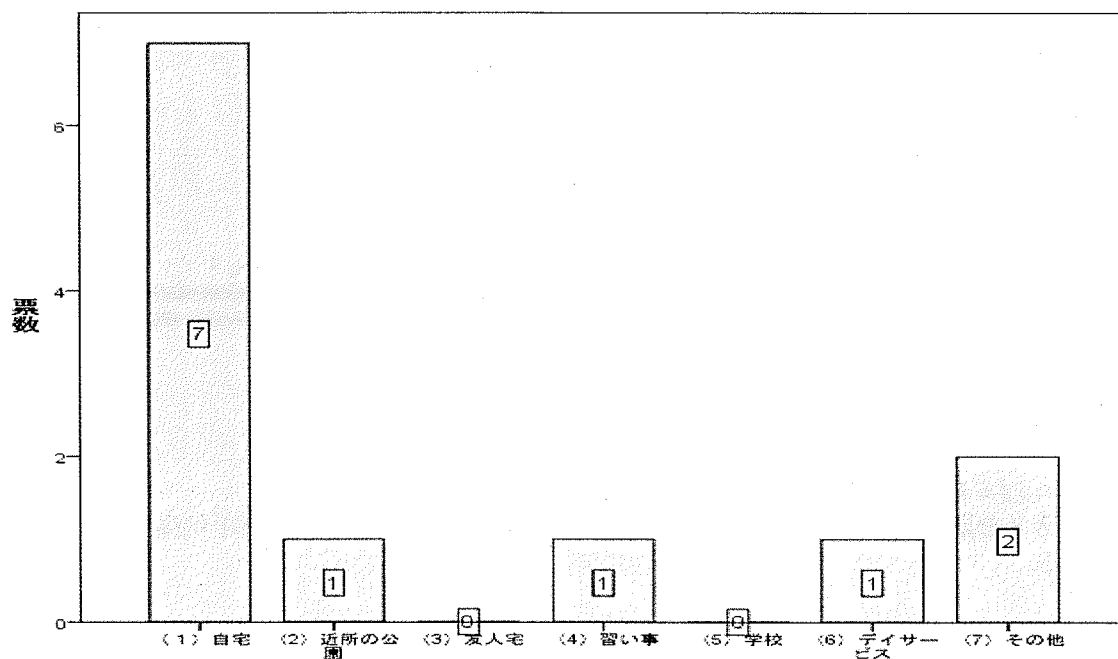
7人中6人が「いる」と回答（1人は無回答）

## 問 1 1－①.



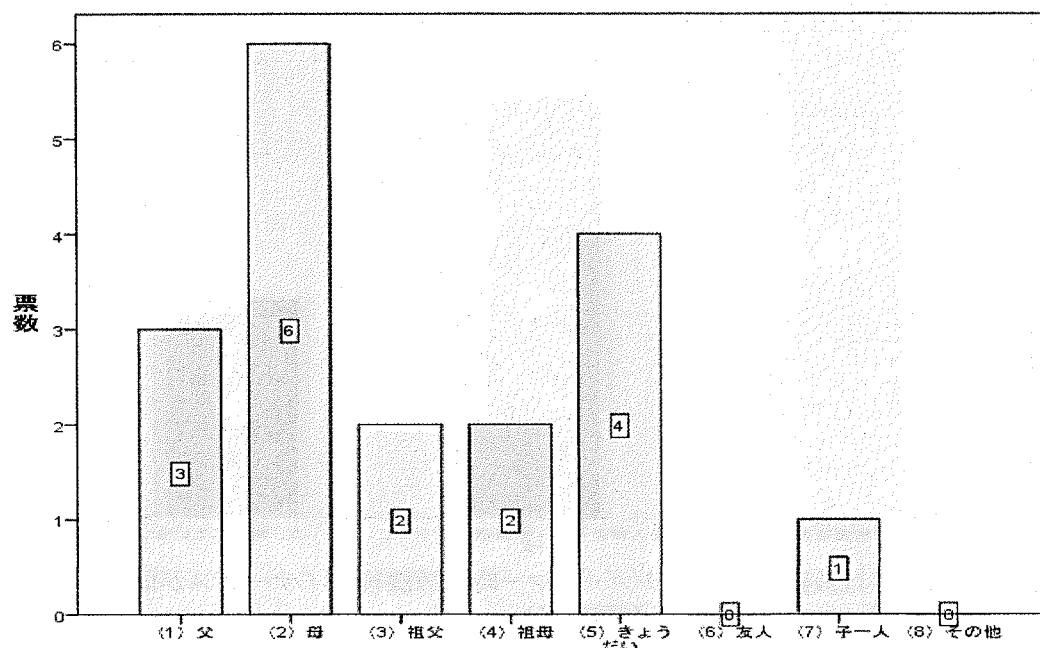
養護学校教諭が小諸市内における主な子育てに関する相談相手であることがこのグラフからわかる。小諸市の養護教諭と保護者との信頼関係の強さによるものかと思えた。

## 問 12. 土日の過ごし場所（複数回答）



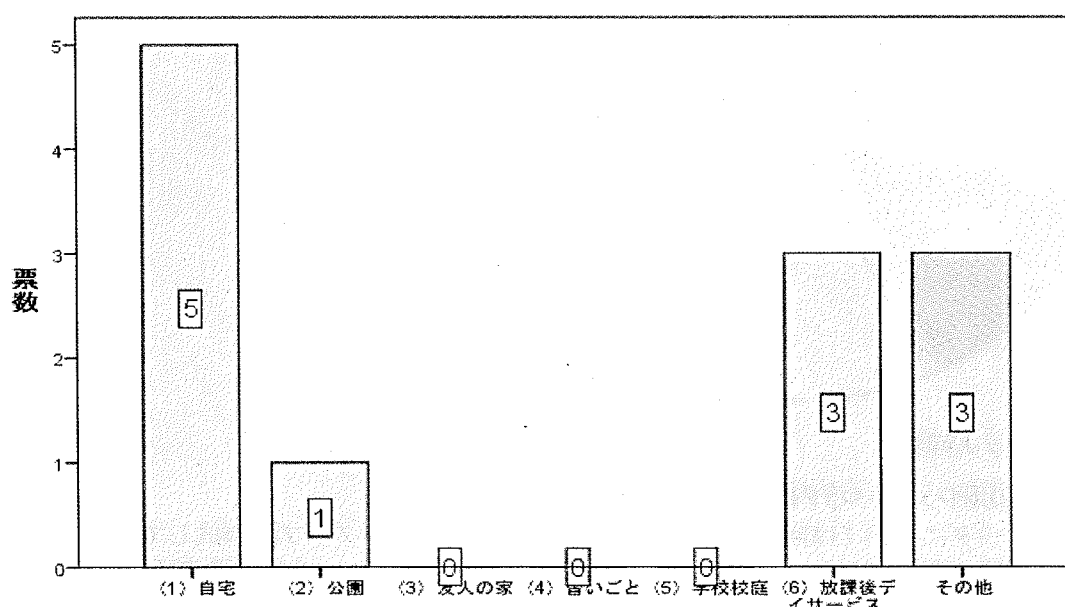
自宅と回答した人が大半を占めているのがグラフから読み取れる。その他の場所にはあまりいかず基本自宅で過ごしているのが分かる。

### 問13.土日誰と過ごすか



父・母・兄弟の割合が比較的多く、問6-2での回答でもわかるように基本は親族と共に生活して友人や知人に子供を預けたりすることはあまりないことが分かる。家族と共に過ごす時間が比較的に長いことがうかがえる。(複数回答)

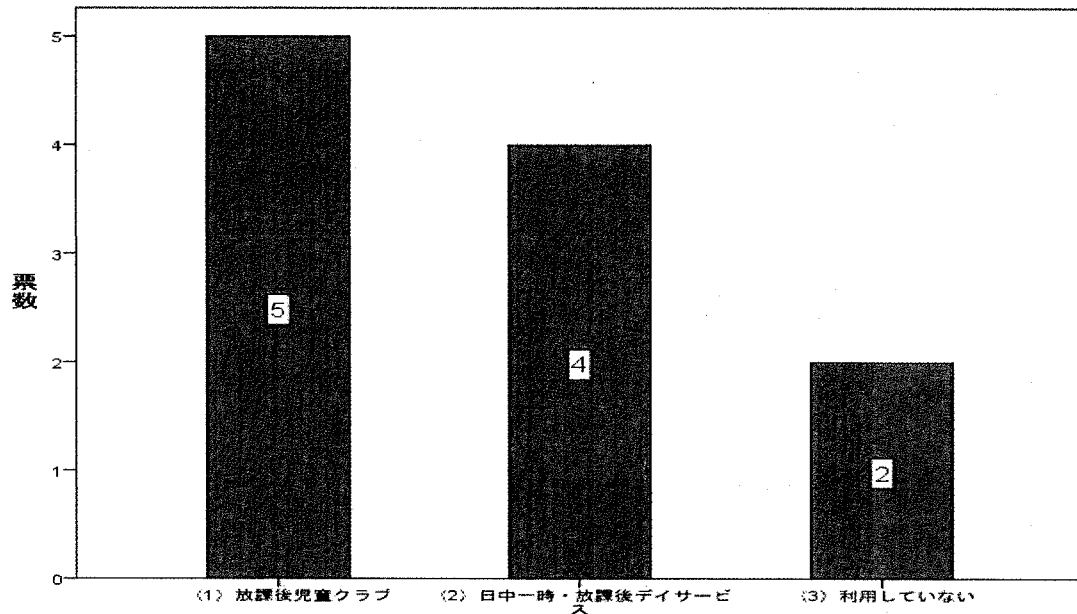
### 問14.長期休暇における主な過ごし場所



こちらのデータも基本自宅で過ごす割合が多いことが分かる。その他にも放課後デイサ

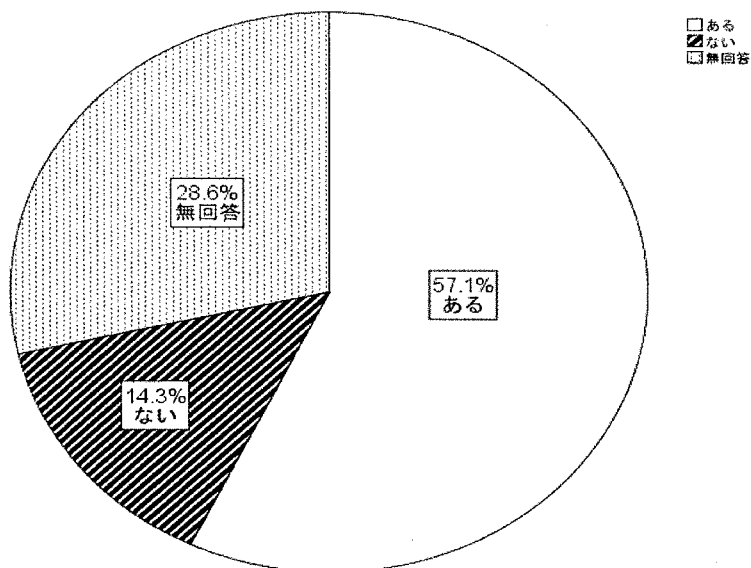
ービスを利用している方もいることがグラフから読み取れる。(複数回答)

#### 問15.施設の利用状況



利用状況については放課後児童クラブ・日中一時・放課後デイサービスが同じぐらいの割合であることがグラフからわかる。(複数回答)

#### 問15 - ①：利用していて困ったことがあるか



(7人中5人回答)

#### 問15 - ②.困っている内容

このデータについては回答者が少なく無回答等が多いためグラフは作成していない。主に「送迎の負担が大きい」「必要なときに利用できない」といった回答が見られた。

(7人中4人回答)

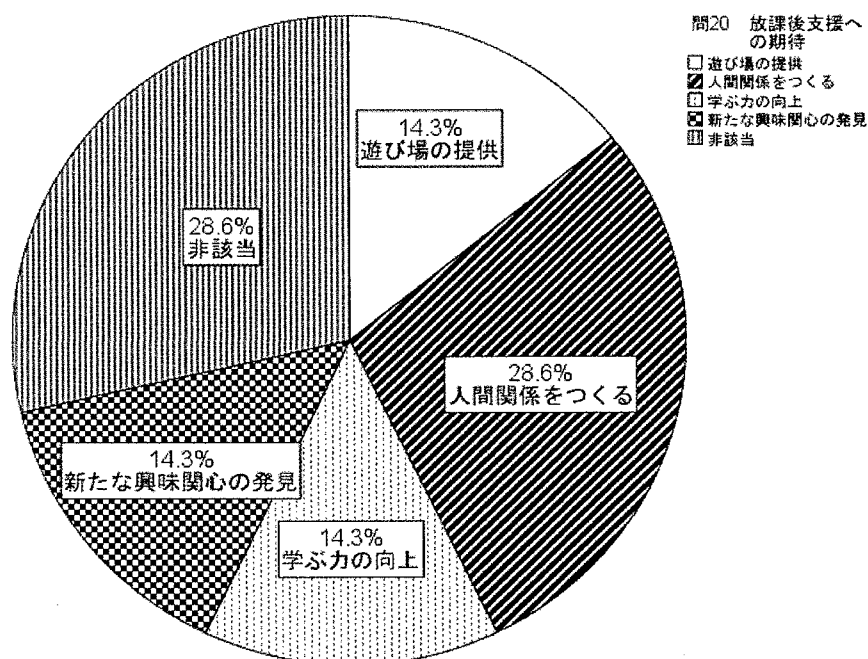
### 問 16.放課後児童クラブ等を利用しない理由

このデータについては、無回答が多いためグラフは作成していない。  
(回答なし)

### 問 17.日中一時支援・放課後デイサービス事業を利用しない理由

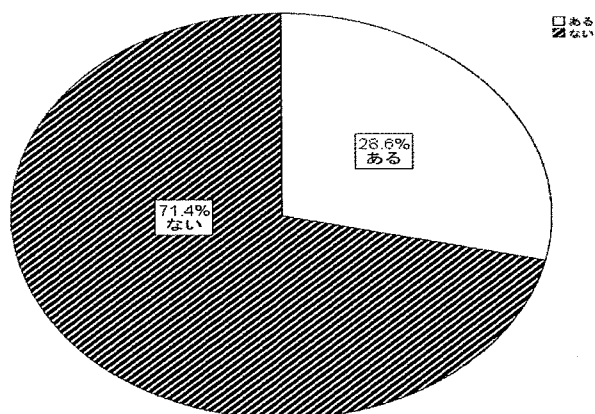
このデータについては、無回答が多いためグラフは作成していない。  
回答としては「利用する必要がない」「不便であるから」というものが見られた。  
(7人中2人回答)

### 問 18.放課後支援に期待すること



前のデータからも分かるように子供たちは主に遊び友達がありませんそれが主要な保護者の悩みの一つともいえる。そのためグラフからわかるように人間関係の形成を今後の放課後支援に期待していることが分かる。

### 問 19.放課後支援として民間企業が運営するサービスを利用されたことがあるか



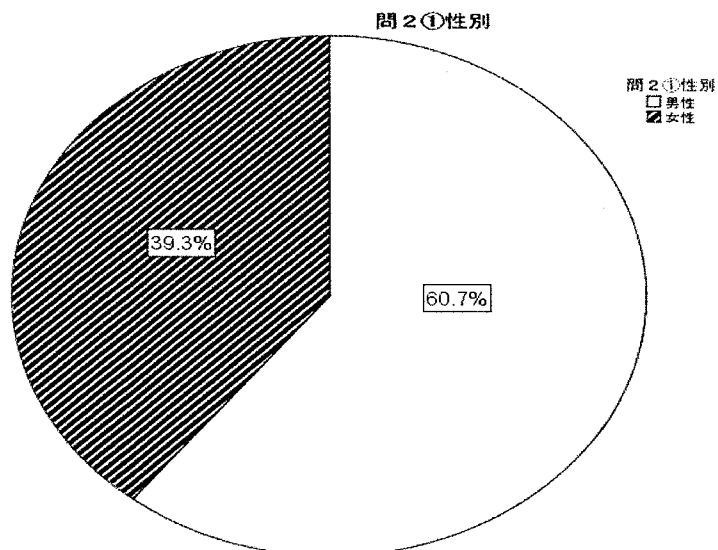
## [小諸市外に居住している保護者のニーズ]

### 《12歳未満》

○アンケート結果 12歳未満

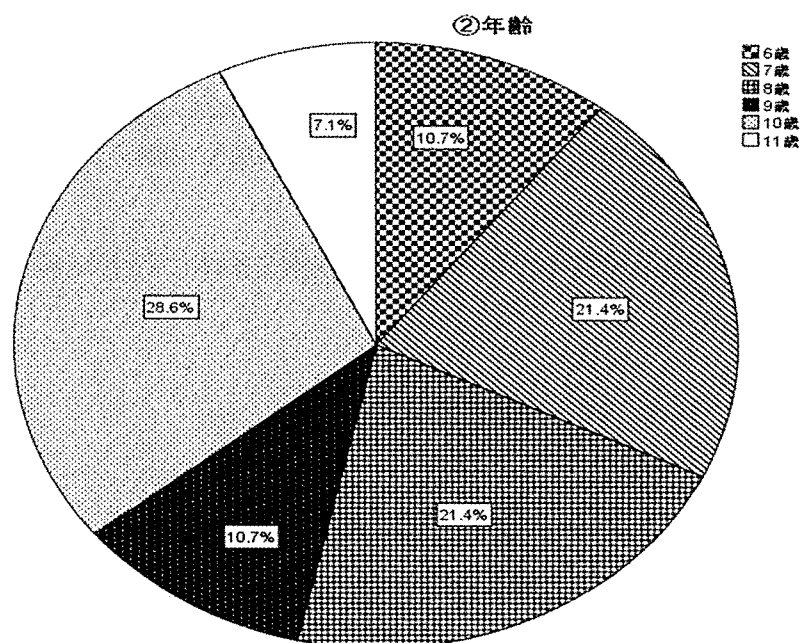
#### 問2. 回答者のお子さんの性別・年齢

##### 〈性別〉



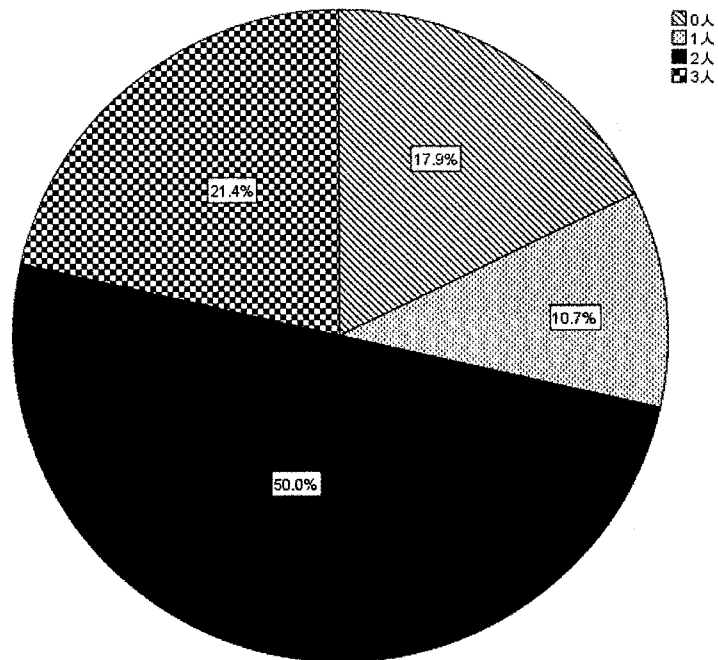
回答者のお子さんの性別は、男60.7%、女39.3%であった。

##### 〈年齢〉



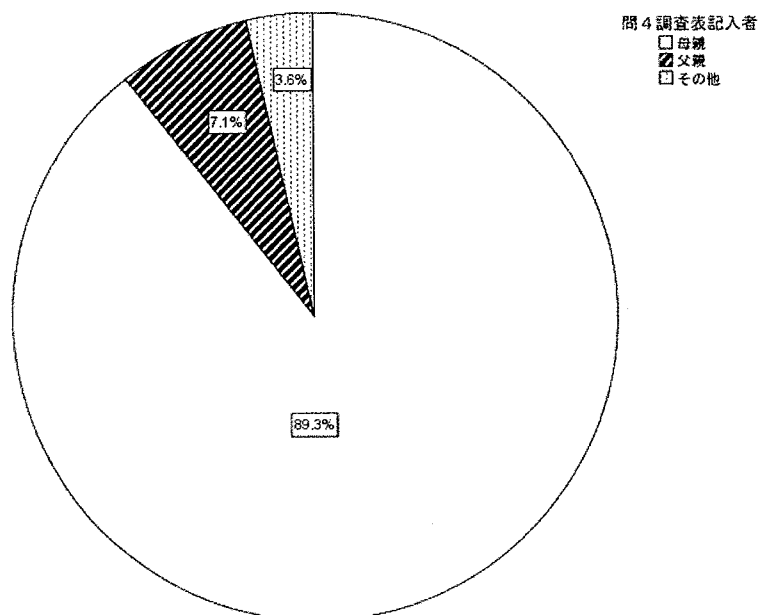
回答者のお子さんの年齢は、6歳10.7%、7歳・8歳21.4%、9歳10.7%、10歳28.6%、11歳7.1%であった。

### 問3. 回答者のお子さんのきょうだい数



回答者のお子さんの兄弟数は、誰もいない人17.9%、1人10.7%、2人50.0%、3人21.4%という結果であった。

### 問4. アンケート記入者



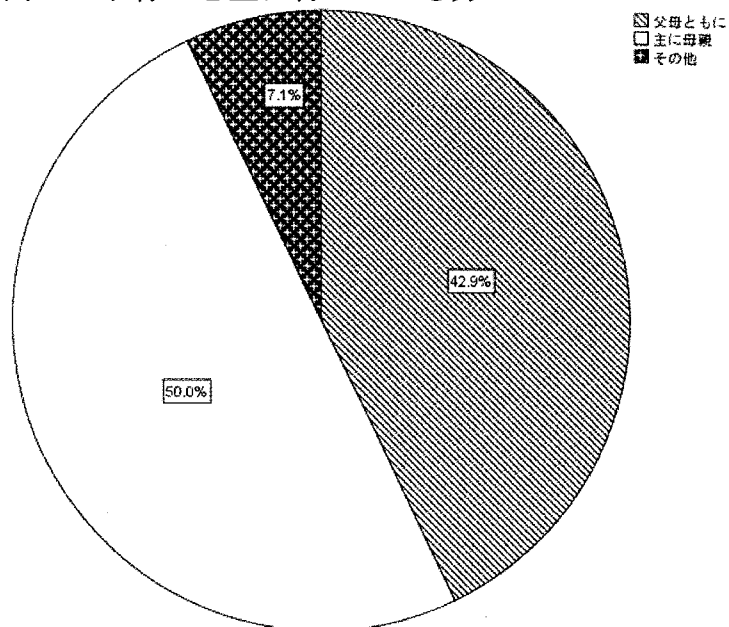
アンケートの記入者は89.3%で、主に母親であった。

#### 問4-①. アンケート回答者の年代



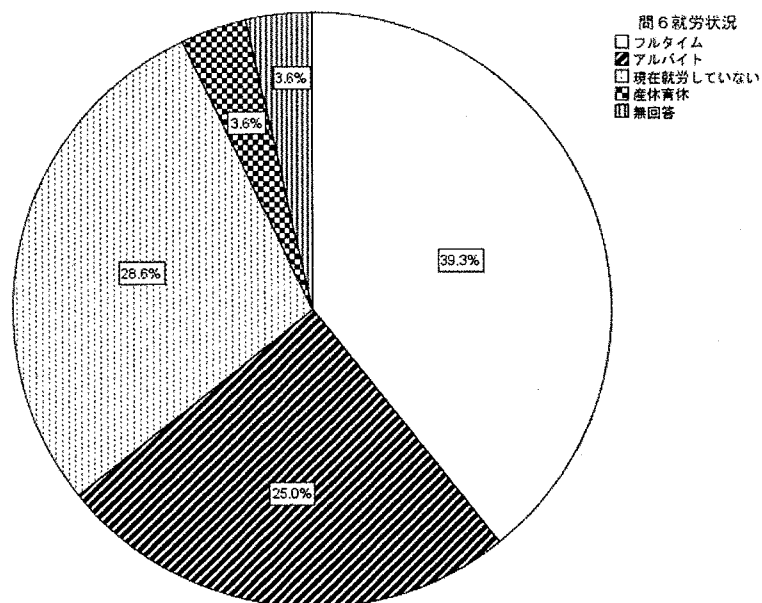
アンケートにご記入していただいた方の年代は、20代7.1%、30代42.9%、40代50.0%という結果であった。

#### 問5. 子育てを主に行っている方



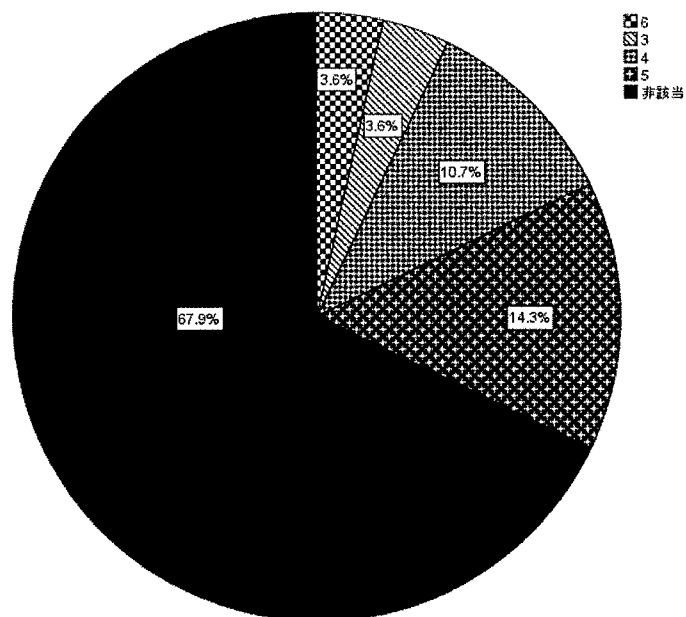
子育てを主に行う人は父母ともに行う人が50.0%と一番多いことが分かる。しかし42.9%が母親という結果も考えると、日常的に母親に負担が大きいことも推測できる。

## 問6. 子育てを主に行っている方の就労状況



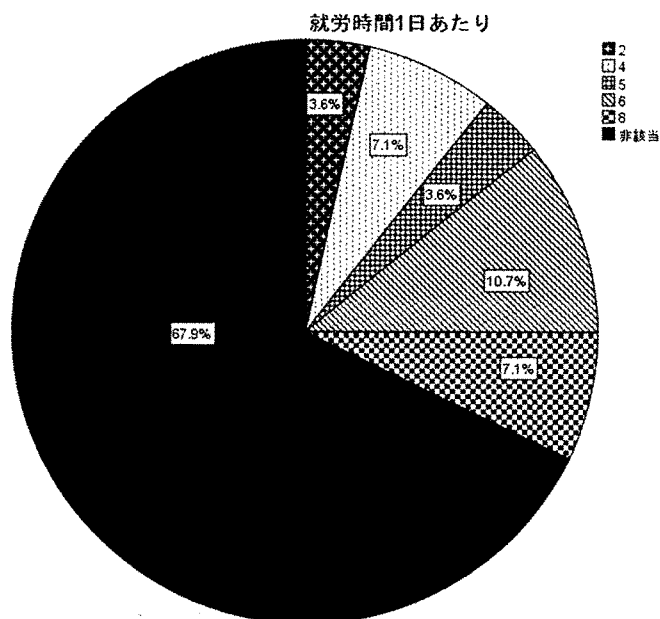
就労状況の結果はフルタイム39.3%、アルバイト25.0%、現在就労していない人28.6%、産休・育休3.6%、無回答3.6%という結果であった。  
子育てをしている中で、フルタイムで働いている割合が一番高いことがわかるが、一方で現在就労していないと答えた割合も28.6%と高いことがわかる。

### 問6-①. 一週間・一日あたりの就労時間 〈1週間あたり〉

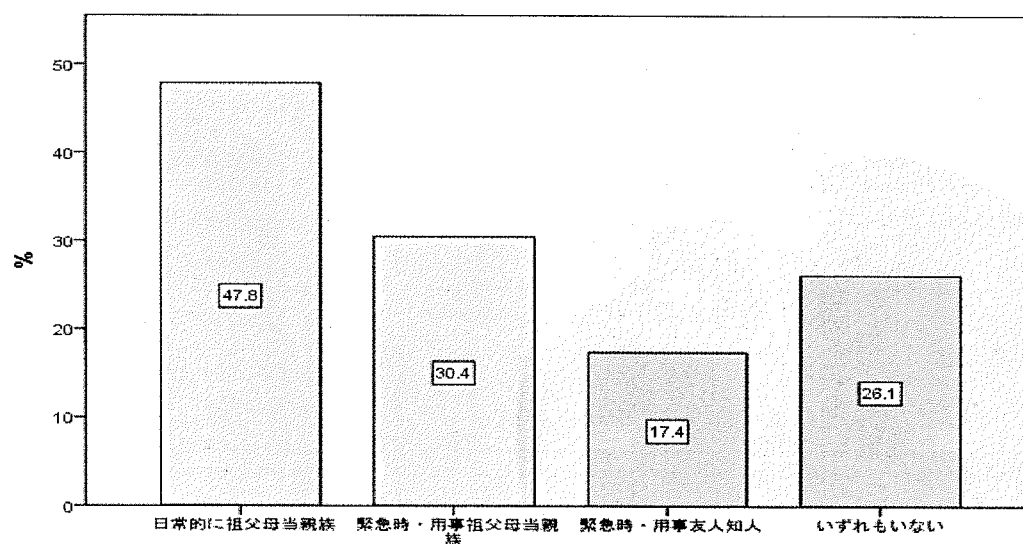


問6のパートタイムで働いている人に対して、一週間あたりの就労日数はどの位かという問についての結果である。5日が14.3%と土日を除いて平日フルで働く人が一番多かったことがわかる。

〈1日あたり〉



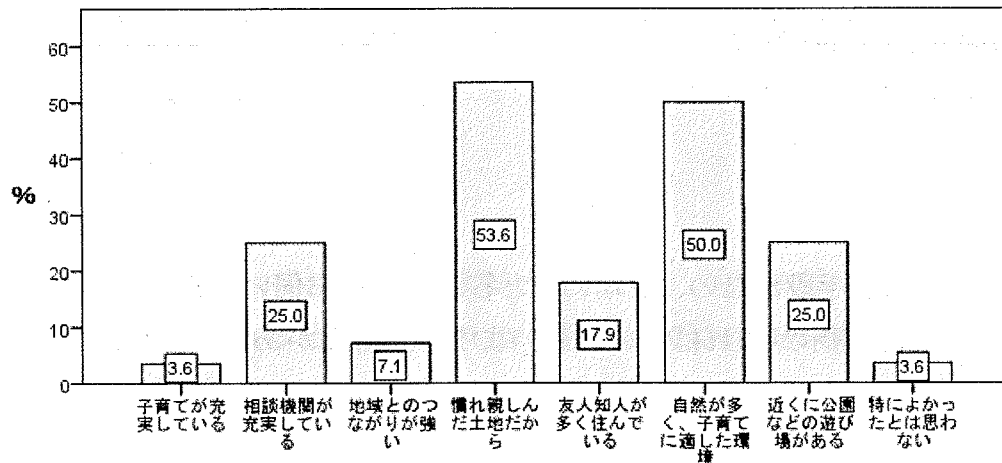
問 6 - ②. お子さんを見てもらえる親族・知人



日常的に友人・知人に見てもらえるという質問に関しては回答者がいなかったため、グラフに記載されていない。割合が高いのが、日常的にも、緊急時にも、子供を祖父母・親族にみてもらえるという回答であった。しかし、いずれもないと答えたのが26.1%と割合的に高い数値を占めていることもわかる。祖父母・親族に頼ることなく、いつでも安心して子供を任せられる環境の必要性を考えさせられる。

## 問7. 子育てをしていく中でよかったと思う点

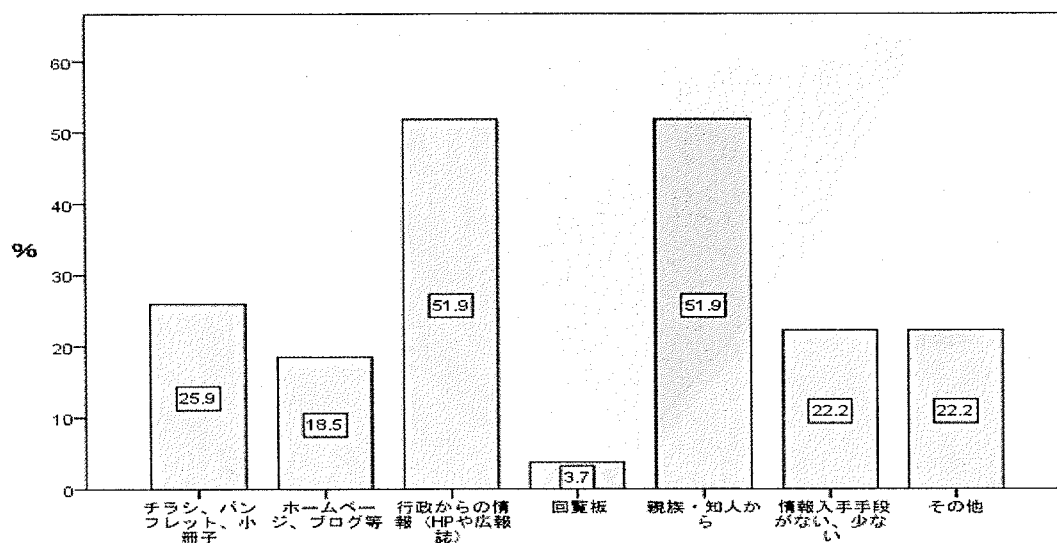
### 居住地域の子育てでよかった点



お住まいの地域の中で、子育てをしていく中で一番よかったと思う点という問に対して一番多かったのは、「慣れ親しんだ土地だから」という回答であった。また次に多かった回答は「自然が多く、子育てに適した環境であるから」である。回答結果を見ると、できる限りこの地域でより良い子育てをしていくことを望んでいる人が多いということが推測できる。

## 問8.

### 子育て支援サービスの情報の入手方法



情報入手方法としては、行政からの情報と親族や知人から得た情報が多数を占めていることがわかる。このことを通して行政は地域との連携をより深め、地域が情報を受け取りやすいようにしていく必要性を考えさせられる。その他のコメントは6人から得ることができた。以下、その他のコメント。

1. 障害を持つ親同士の情報交換を通して入手する
2. 必要な情報を自分で調べる
3. 学校から得る情報
4. 小諸養護学校から得る情報
5. PTA主催などの学習会などを通して
6. 窓口の役所を通して

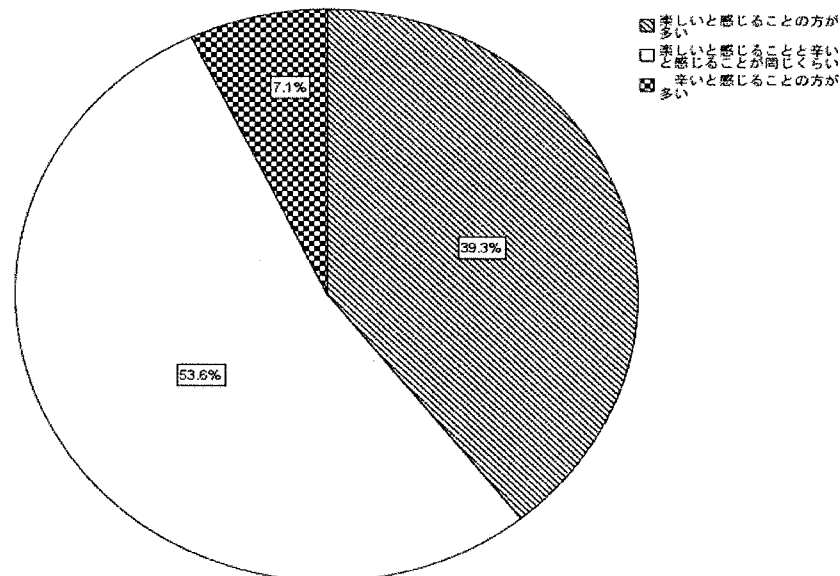
#### 問8-①.

問8で「情報の人手手段がない、少ない」と答えた方にお伺いします。どのようなサービスの情報開示があればいいと思いますか。意見があればご自由にお書きください。

この問に関しては、4人からの意見を得ることができた。以下、意見。

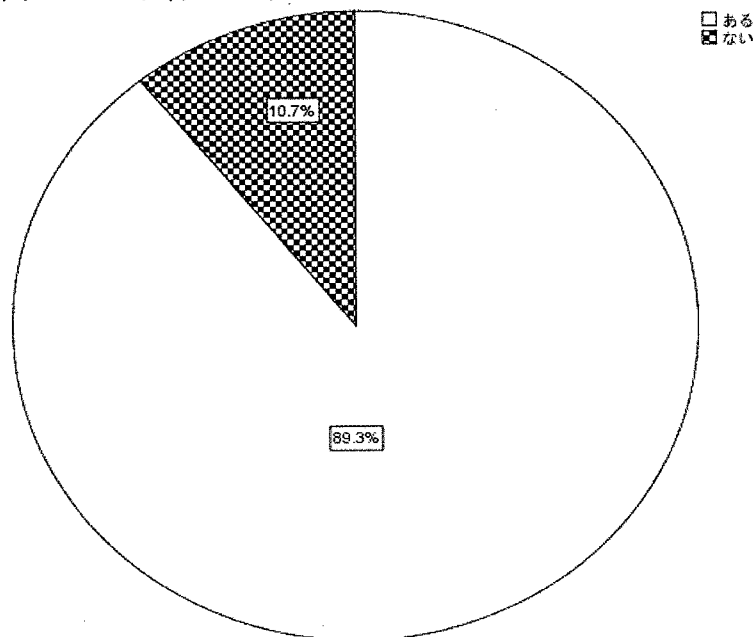
1. 郵送などで情報を送ってほしい。
2. 町の申請の場で情報くれないので困っている。障害児が生まれたときにサポートが教えてほしかった。もっと情報がほしい。
3. 学校からプリントで知らせてほしい。
4. 町や学校からのお知らせを通して知らせてほしい。

#### 問9. 子育ての感じ方



子育てをしている中で、楽しい・つらいという感情は必要なことであると考えます。しかしつらいと感じることが多いと答えた人の7%に注目すると、高い割合であるといえる。子育てに意味を見出せるような対策し、少しでも楽しいと感じられるようにしていくべきだと考える。

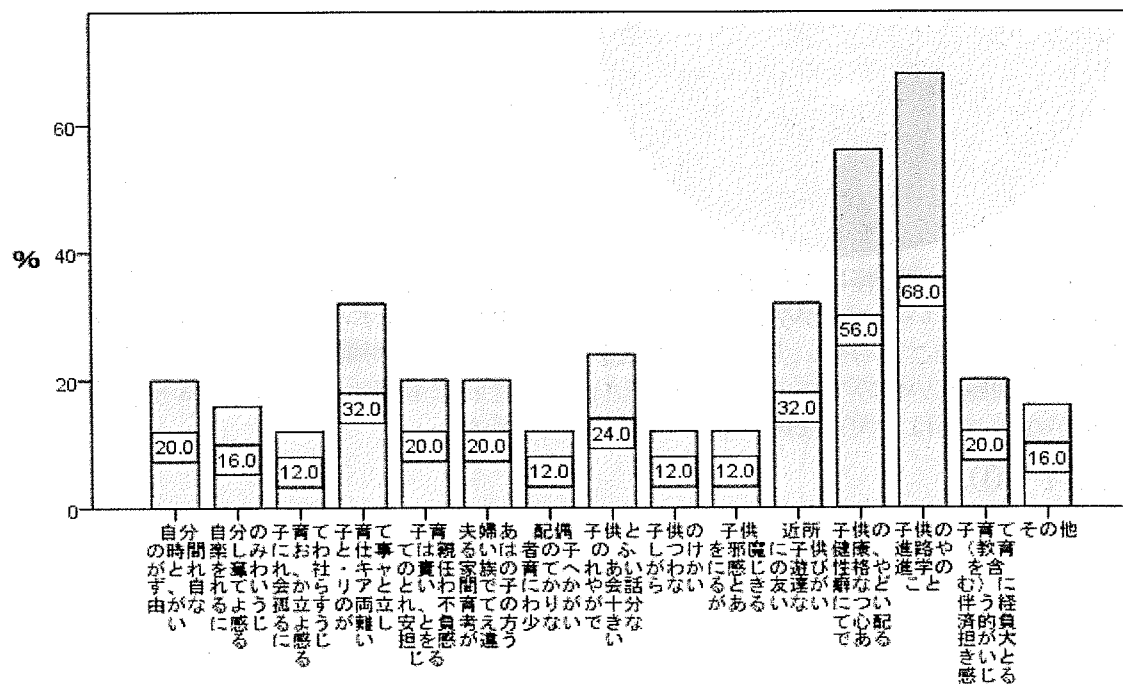
# 問10. 子育てをする上での不安や悩みなど



子育てをする中での不安を感じる人は89%と過半数を占めることがグラフでも見ることができる。子育ての不安を解消していくためのコミュニティを増やしていくこと、また情報開示をスムーズにし、不安を持ちにくくする環境づくりが必要であるといえる。

## 問10-①.

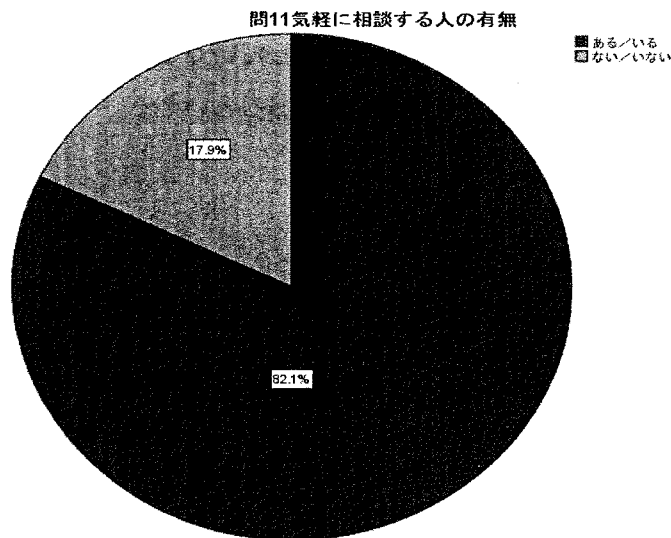
### 子育てに対する不安・悩みの内容



子育てに対する不安や悩みに対して、進路や進学について、また近所に遊び友達がいな  
いといった解答が多く見られた。二つに共通して言えることは、都市部から離れた郊外の  
問題点であるとも考えられる。都市部とのコミュニティを広げ、進路選択をより自由に  
していくこと、都市部とはまた違う遊び場の確保を検討する等、工夫が必要であると考えら  
れる。その他のコメントは4人から得ることができた。以下、その他のコメント。

1. 佐久は学童クラブが諏訪地域と違って、ないために放課後デイサービスをおねがいす  
るしかないが、時間制限があり、厳しい。
2. 障害のため、具合が悪くなっても医師にも原因がわからないことが多いのでとても不  
安。
3. 親がいなくなった後の子供の将来の不安。
4. 自分の先に死んでしまうので子供が大変になる。

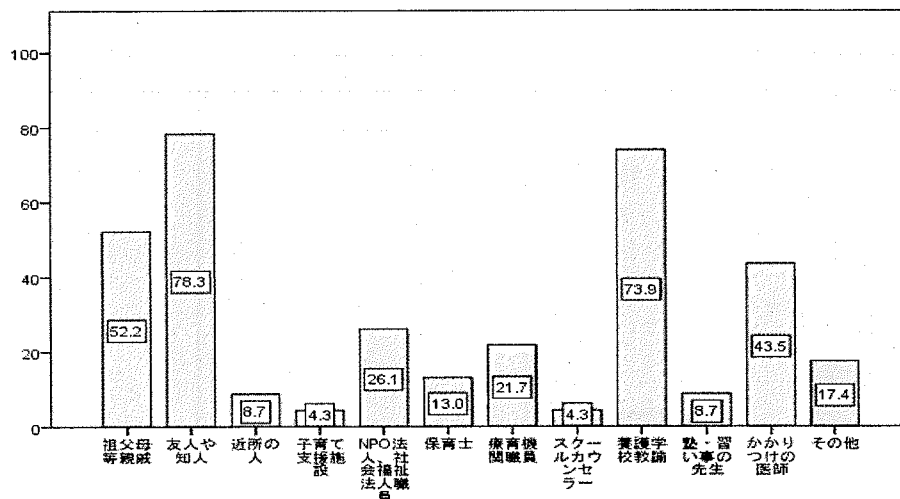
#### 問 1 1 .



この回答から、気軽に相談する人が「ある／いる」は約80%以上であり、多くの保護者  
が悩みを抱えていることが分かる。その中で、約18%は相談する相手が「ない／いない」。  
子育てとは悩むことも多い。障害児の保護者には、専門的な知識が必要になる場合もある  
ため、特別難しい悩みであることが推測される。それにも関わらず、約18%もの親に相談  
の場がないことは、大きな課題なのではないだろうか。

#### 問 1 1 - ①.

### 子育て（教育を含む）に関して気軽に相談できる先

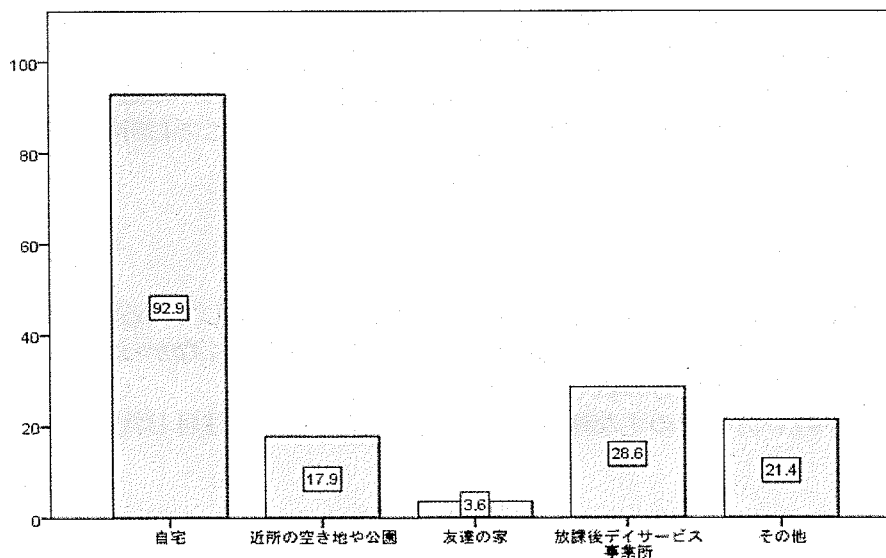


気軽に相談できる先で、最も回答が多かったのは「友人や知人」、次に多かったのは「養護学校教諭」で、共に約70%以上の方が相談している。その一方、「子育て支援施設」と「スクールカウンセラー」は共に4.3%と回答が少なかった。

このことから、子育て支援施設とスクールカウンセラーという、子育てを相談するための機関があまり機能していないのではないかと考える。問11「気軽に相談する相手の有無」の「ない/いない」の回答が少数ではないため、サービス内容に変化が必要であると考えられる。

### 問12.

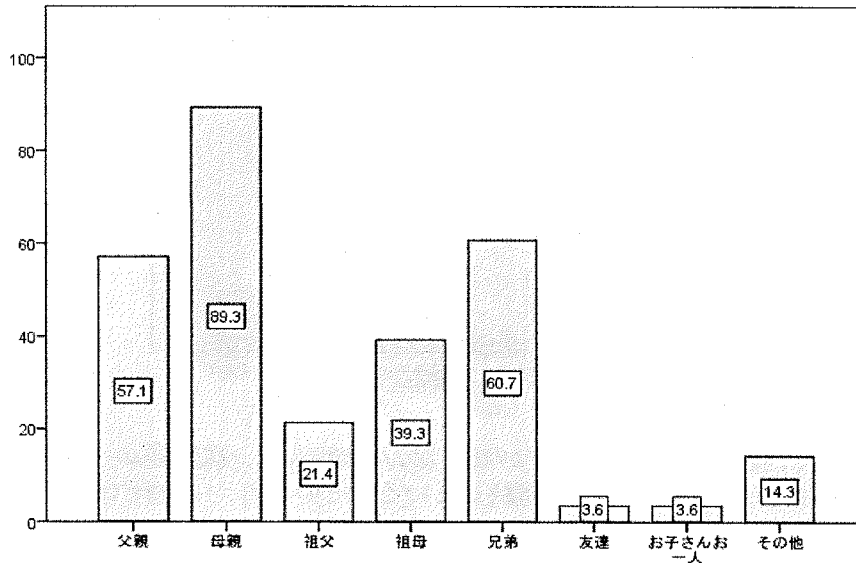
### お子さんが土日をお過ごし場



お子さんが土日をお過ごし場として最も回答が多かったのは、「自宅」で92.9%であった自宅一人でまたは親、兄弟のみと普段から遊んでいて、他の子供との交流がない可能性が推測される。

### 問 1 3.

お子さんが土日誰とともに過ごすか



お子さんが土日を誰とともに過ごすかの回答として、最も多かったのは「母親」であった。このことから、母親の子育てにおける負担が大きいことがわかる。

### 問 1 4.

n=28

長期休暇を過ごす場として最も回答が多かったのは「自宅」であった。また2番目に多く回答が集まったのが日中一時支援等の放課後サービスであり、小諸市外、または小諸市内での日中一時支援等のサービスが充実していることが推測できる。しかし選択肢の4番に設定してあった「習い事」と回答した方は1人もいなかった。このことは非常に重要な課題となる点ではないだろうか。

### 問 1 5.

n=26

現在、小諸市外にお住まいの方で学童保育や日中一時支援等を利用している方は比較的多く、どちらか一方だけではなくどちらも利用している人の数も少なくなかった。しかし、利用していないと答えた方の数も少ないとはいえない。続く問いに利用していない方のその主な理由に関する問いがあるので注目したい。

### 問 1 5 - ①.

放課後児童クラブ（学童保育）、日中一時支援を利用していて困った点が「ある」と回答した方は回答者の半数以上を占めている。次の質問でその具体的な内容についての回答があるので注目したい。

## 問 15-②.

n=13

困ったことの具体的な内容として最も回答が多かったのは「必要時に利用できない」という回答でした。これは施設数と登録制度の関係ではないかと推測できる。また次に多かった回答も「回数や時間が合わない」「送迎の負担がある」など、車移動の比較的多い今回の調査地域ならではの問題ではないかと思われ、非常に注目すべき点であると考えます。また、その他の回答には、施設の利用者定員数の問題などが挙げられていた。

## 問 16.

n=11

放課後児童クラブ（学童保育所）、日中一時支援等を利用していない方の主な理由として「その他」を抜かして最も多かった回答が「必要がないから」という回答だった。

この「必要がない」という回答には施設の取り組み等の情報を得ずに必要がないと判断したのか、情報を得て必要がないと判断されているのとは意味が変わってくる。この点はさらに調査の必要が求められる。

その他の回答にはお住まいの市の方針から「学童保育所がほぼなく、児童館ばかりで学童保育所がどこにあるかわからない。」「行ける状態ではない。」「養護学校に学童保育がない。」などが語られる。ここから利用者の幅を広げる取り組みや、施設の情報開示がさらに求められると考えられる。

## 問 17.

n=9（当てはまる番号すべてに○）

※その他の回答としては、「事業所の募集定員が常に0だから」、「いける状態でないから」があった。

回答から、日中一時支援・放課後デイサービスを利用しなくとも支障が少ない家庭が多くあることがわかる。しかし一方で、交通の不便さや事業内容に対して満足でない意見があると考えられる。支援が届かない家庭が減るような工夫が必要であると推測する。

## 問 18. 放課後支援に期待すること

※その他としては、「学校以外の場でも社会性を身につける」、「体力向上になる活動」があった。

多い回答をみると、「1. 遊び場の提供」「2. 人間関係をつくる」「4. 新たな興味関心の発見」など、子どものためを思う期待が多いことが分かる。その一方で、保護者自身の自由時間の確保が難しいことが考えられる。その他の回答も、子どもの将来を考えた内容であり、家庭で身につけきれない、他者との交流が期待されていると考察する。

## 問 19. 民間企業運営サービスの利用はあるか

民間企業運営サービスの利用は多くの人利用していないことがわかる。考えられる理由としては、民間企業運営のためお金がかかる、送迎の問題などがあるだろう。

**問19-① 民間企業運営サービスを利用してよかった点（※回答は別紙:4名）**

民間企業サービスの利用によって、利用者本人も楽しめ、保護者の行動範囲が広まるという両者のメリットがある。また、ボランティアのみならず、企業が運営しているサービスも利用することにより、安心して預けられる場所が1つ増えた。（子どもも安心して過ごすことができる。）

**問19-② 民間企業運営サービスを利用して困った点（※回答は別紙:3名）**

利用時間や人数に限界があるため、思うように利用できない人もいる。また、長期休み等では利用する人が日ごろより多く集まるため、飽和状態になってしまうと考えられる。このことから、利用したい人に対して民間企業運営サービスに限らず、施設等の数が足りていないことがわかる。

**問20. 自由回答（11名）**

自由回答にあるような要望を聞いてくれるところはあるのだろうか。内容を読んでいると、多くの要望があることがわかる。特に送迎に関わることにに関しての意見が多くある。人口も首都圏とは異なっているため、交通や施設の場所にしろ、不便なことは多くあるが、どうにかして意見・要望を反映してほしい。

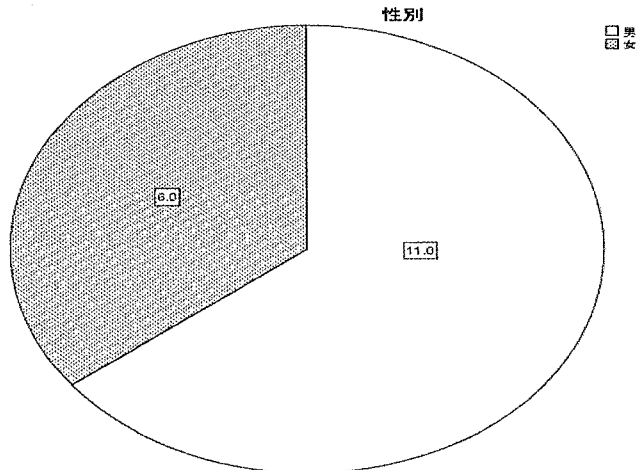
また住んでいる場所によって、サービスの充実度に差があることもわかる。例を挙げると、軽井沢町は観光地としては充実しているが、地域住民が生活することに焦点を当てると、住み良いとは言えない。（渋滞など）観光に特化しすぎるのではなく、住む人のことを考えてサービスを見直す必要があるのではないか。

特別支援学校で専門的知識を持つ看護師が派遣されている。ボランティア・ヘルパーさんに関しても、専門的な知識を身につけるなど、知識の向上を図ることによって、保護者の方はより一層安心して預けることができるだろう。（医療的ケアが必要な子どもも預けやすくなる。）

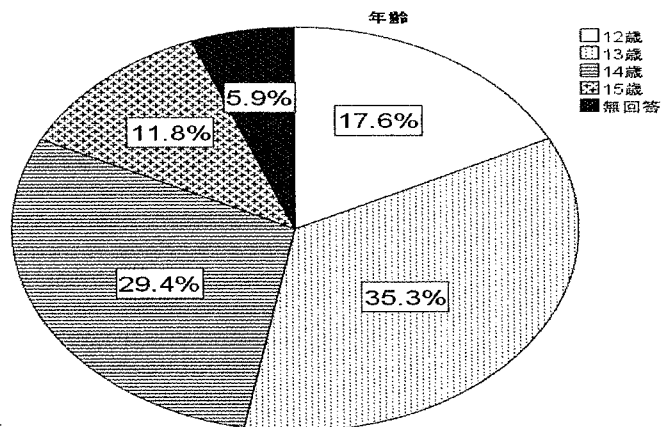
## 《12 歳以上》

○アンケート 小諸市外 12 歳以上

問 2.お子さんの性別と年齢をおうかがいします。



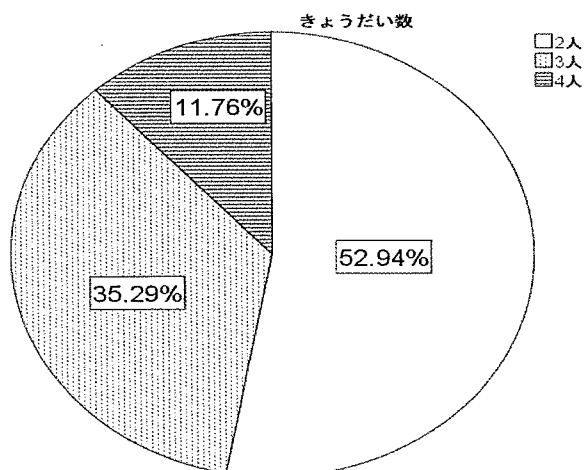
<性別>



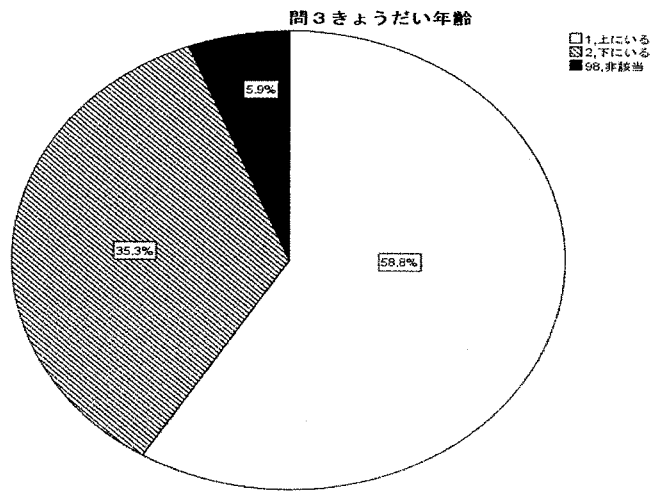
<年齢>

問 3.お子さんのごきょうだい(在校している方を含め)についておうかがいします。

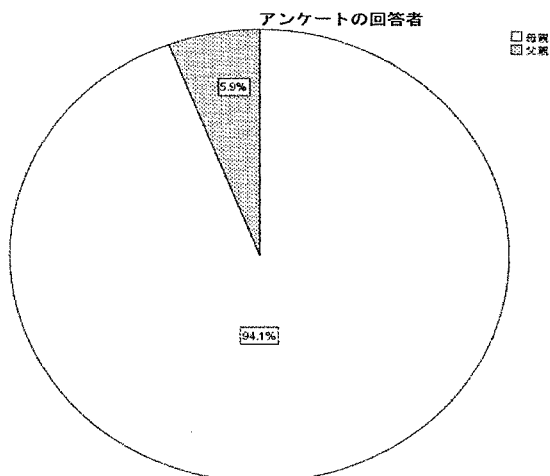
<きょうだいの数>



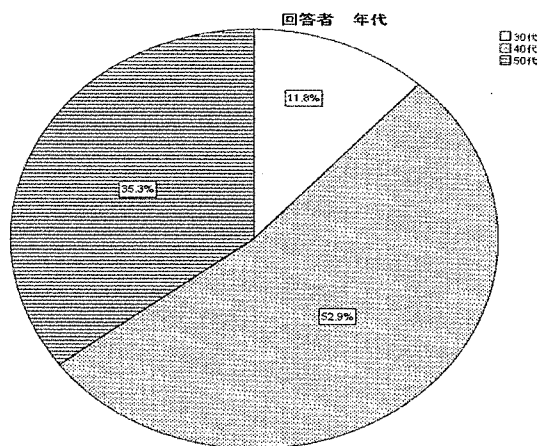
<きょうだいの年齢>



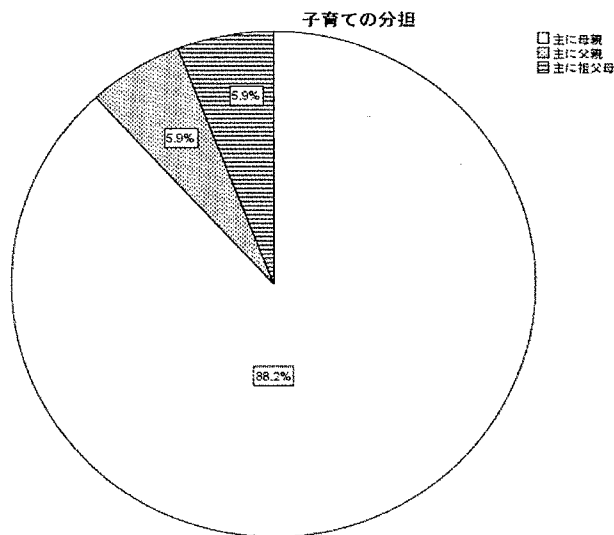
問 4. 調査票にご記入いただいている方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。



問 4-①. ご記入いただいている方の年代をおうかがいします。

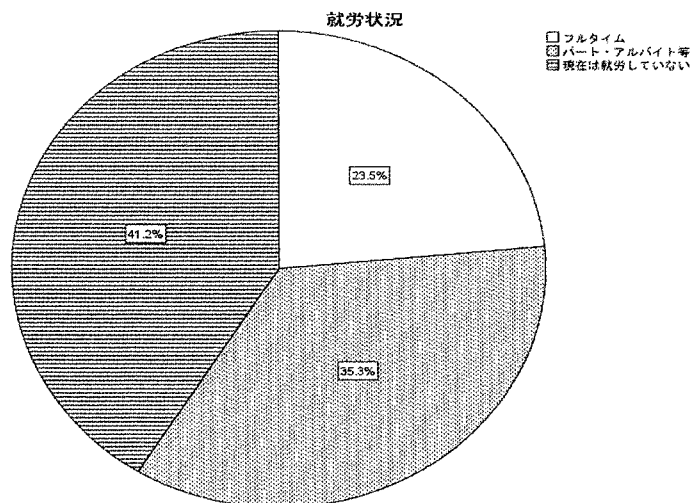


問 5. 子育てを主に行っているのはどなたですか。



グラフから分かるように、主に子育てを行っているのは母親が多く、88.2%を占めている。父親、祖父母は5.9%であり、多くの家庭で子育ては母親中心で行っているということが読み取れる。

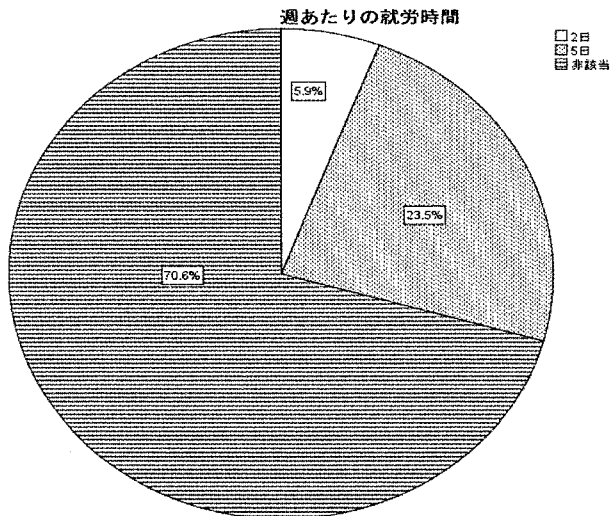
問 6. 子育てを主に行っている方の就労状況



「現在は就労していない」が41.2%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等」が35.3%、「フルタイム」が23.5%であった。専業主婦として家庭を支えている人が多い状況である。また、この結果を文京区で行った『文京区子育て支援に関するニーズ調査』の結果と比較すると、文京区では「フルタイム」で就労している保護者が、33.0%であり、今回の調査結果より高い数値となっていた。

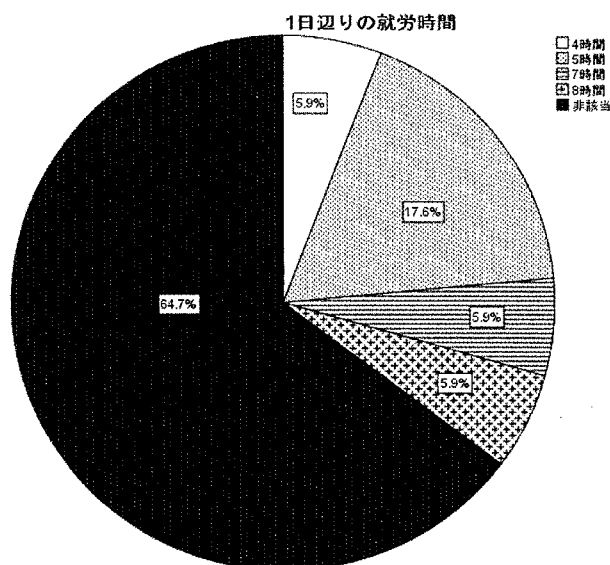
問 6-① 問 6 でパート・アルバイト等と回答した方へおうかがいします。1 週間、1 日あたりの就労時間をお答えください。

< 1 週あたりの就労日数 >



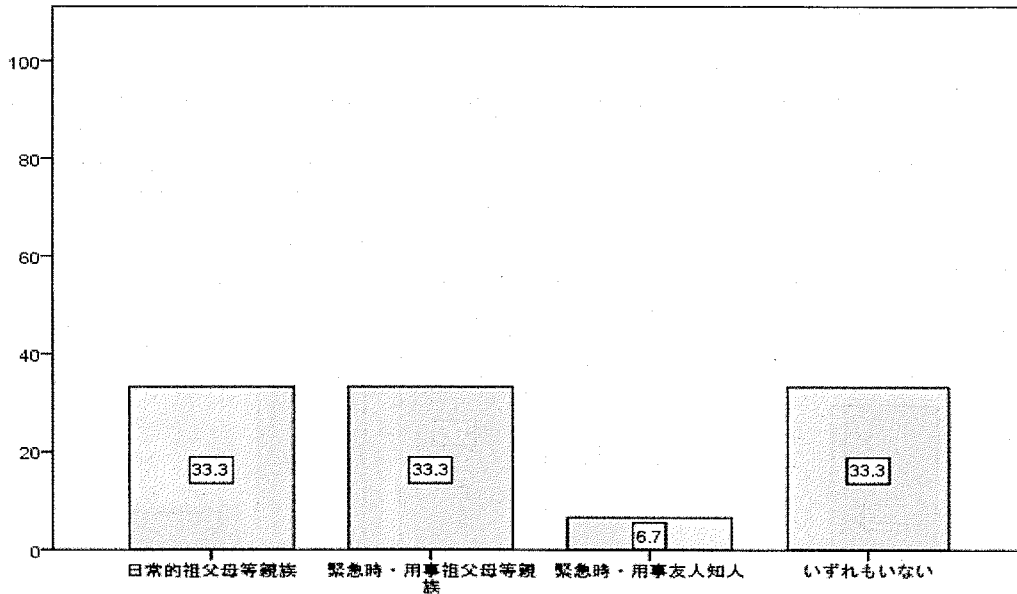
パート・アルバイト等を行っている人の中では「5 日」という答えが最も多い。フルタイムで働くことが困難であっても、就労日数はあまり変わらないようだ。

< 1 日あたりの就労時間 >



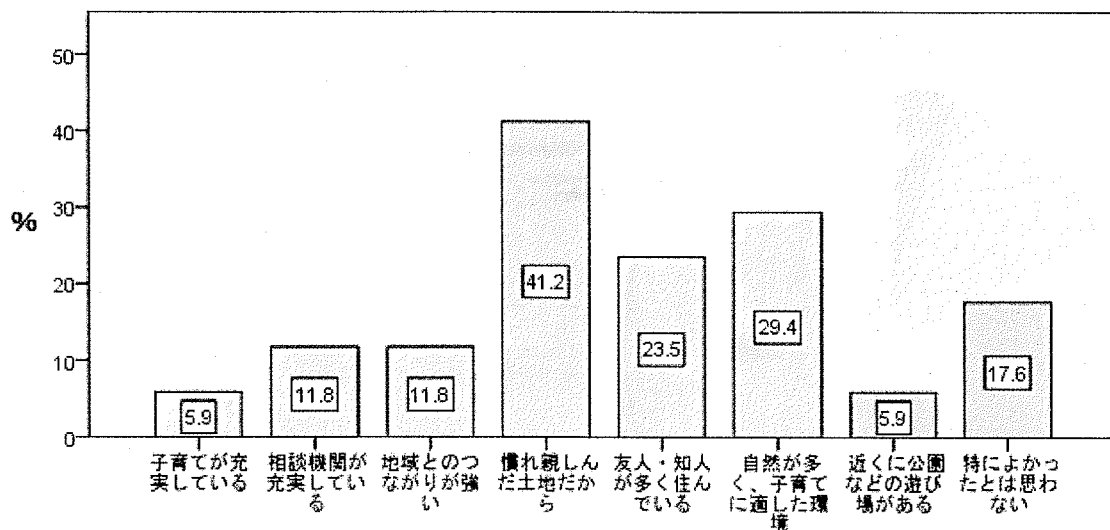
最も回答が多かったのは「5時間」であったが、最も長い就労時間が長い人は「8時間」であった。パート・アルバイトといっても、就労時間はフルタイムと同等の時間働いている人もいるということが分かる。

問6-②. お子さんを見てもらえる親族・知人



「日常的に祖父母等親族」、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」、「いずれもない」が33.3%となっている。ここで注目したいのは、「いずれもない」という回答が多いことである。このことから、日常的に（または緊急時）子どもは保護者が見ている、もしくは子育て支援施設や民間のサービス等を受けているのではないかと考えられる。

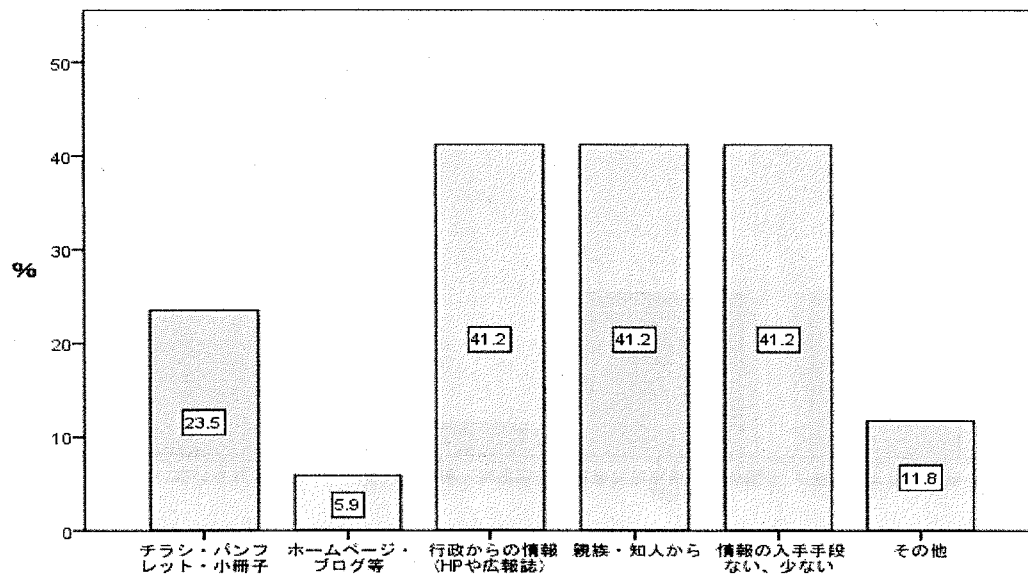
問7. お住まいの地域で子育てしていく中で、よかったと思う点



「慣れ親しんだ土地だから」が41.2%と最も多く、次いで「自然が多く、子育てに適した環境だから」が29.4%となっている。自分の住んでいる地域が子育てに適しているという人の方が多いが、一方で、「特によかったとは思わない」と回答している人が17.6%も占めている。

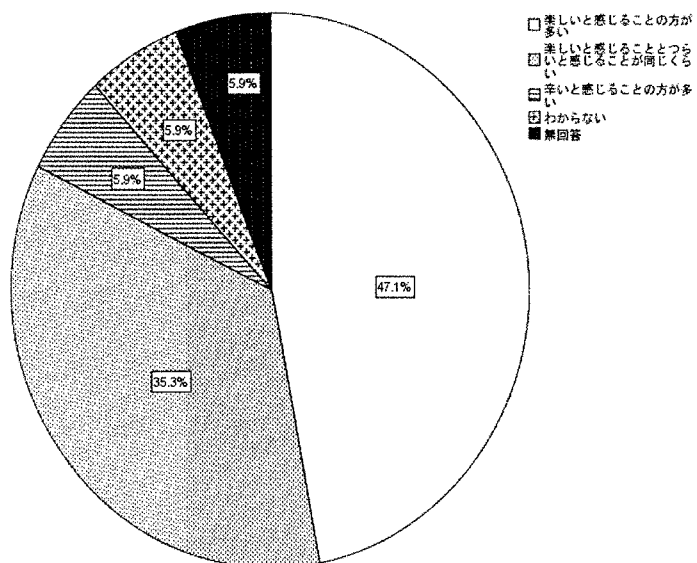
## 問8. 子育て支援サービスについての情報入手手段

子育て支援サービスの情報収集の方法



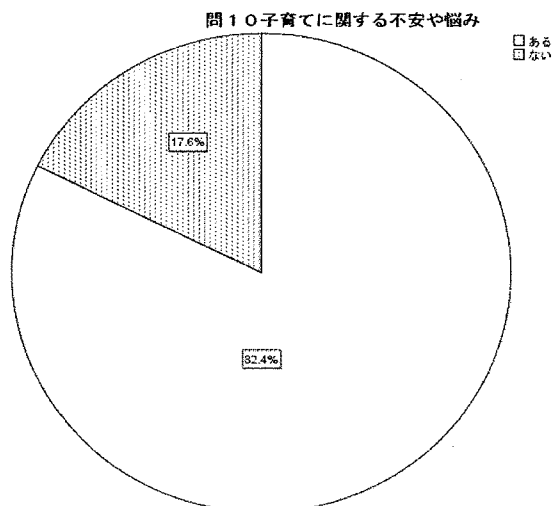
「行政からの情報 (HPや広報誌)」、「親族・知人から」が最も多く、41.2%であった。また、「情報の入手手段がない、少ない」と回答する人も41.2%と最も多く、子育て支援サービスのニーズはあるが、情報を入手できていない人が多く存在していることが分かる。子育て支援サービスを行っている施設や市の行政は、現在の情報開示では不十分であると考えられる。 今後は市の広報や、ホームページだけでなく、学校機関や子どもセンターと連携し積極的に情報を発信していく必要があると考える。

## 問9. 子育ての感じ方



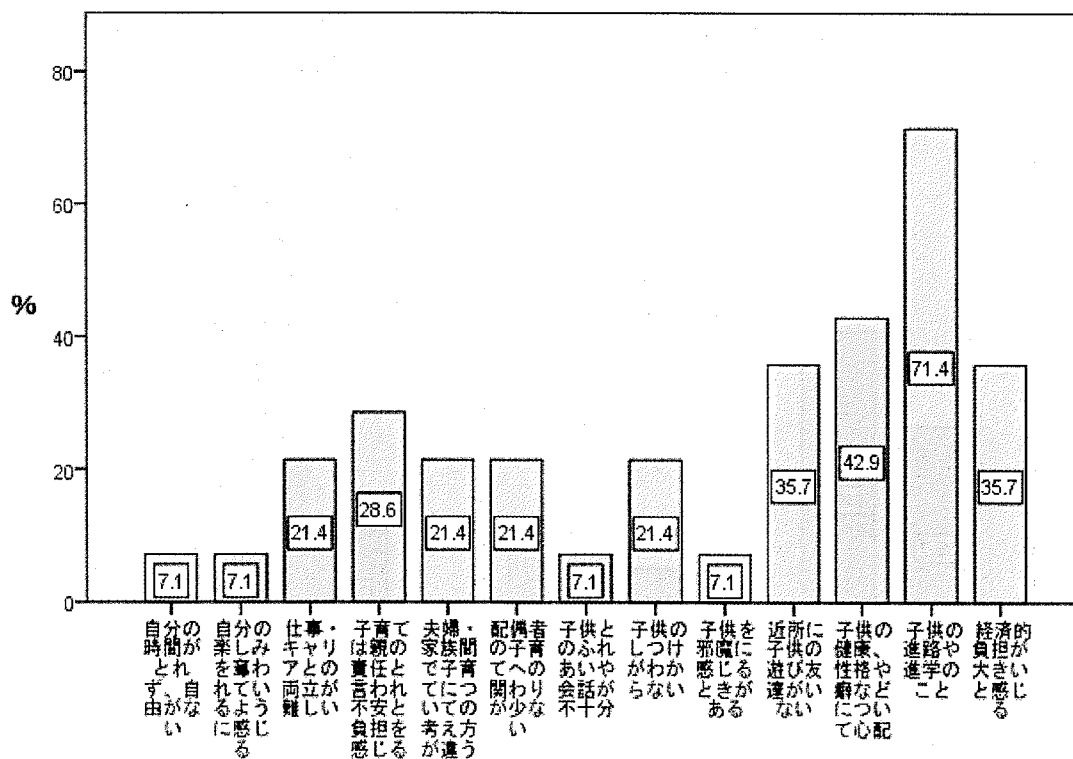
「楽しいと感じることが多い」という回答が47.1%と約半数の人が子育てを楽しんでいると分かる。

## 問10. 子育てをする上での不安や悩み



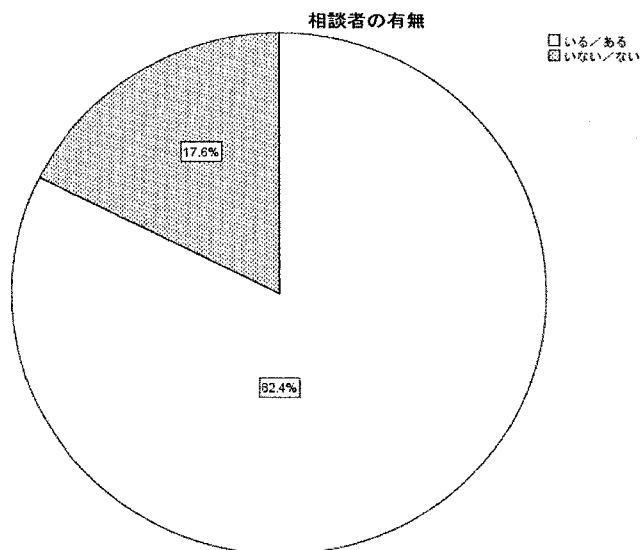
「ある」と回答した人が82.4%で、多くの人が不安・悩みを抱えている。

### 問10-①. 具体的な悩み・不安の内容



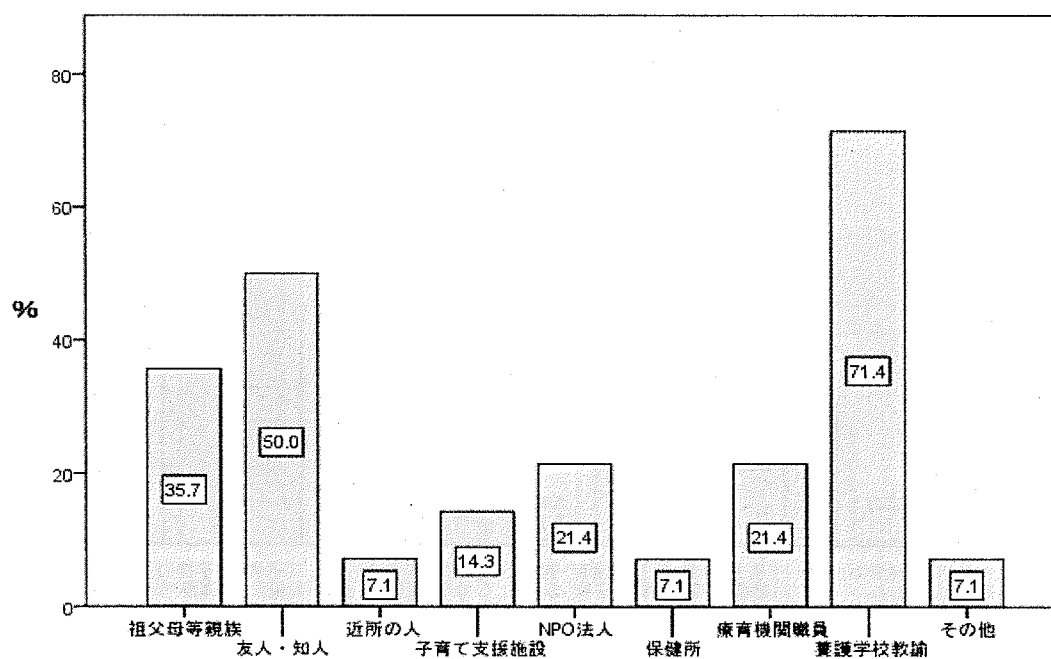
「子供の進路や進学」についてという回答が71.4%と最も多い。次いで、子供の健康や性格癖についてという回答が多く、子どものことを第一に考えていることが分かる。また経済的負担、仕事との両立や精神的負担などの回答も少なくない。親への負担に関する悩みも抱えているようだ。

問11. 気軽に相談できる人・場所



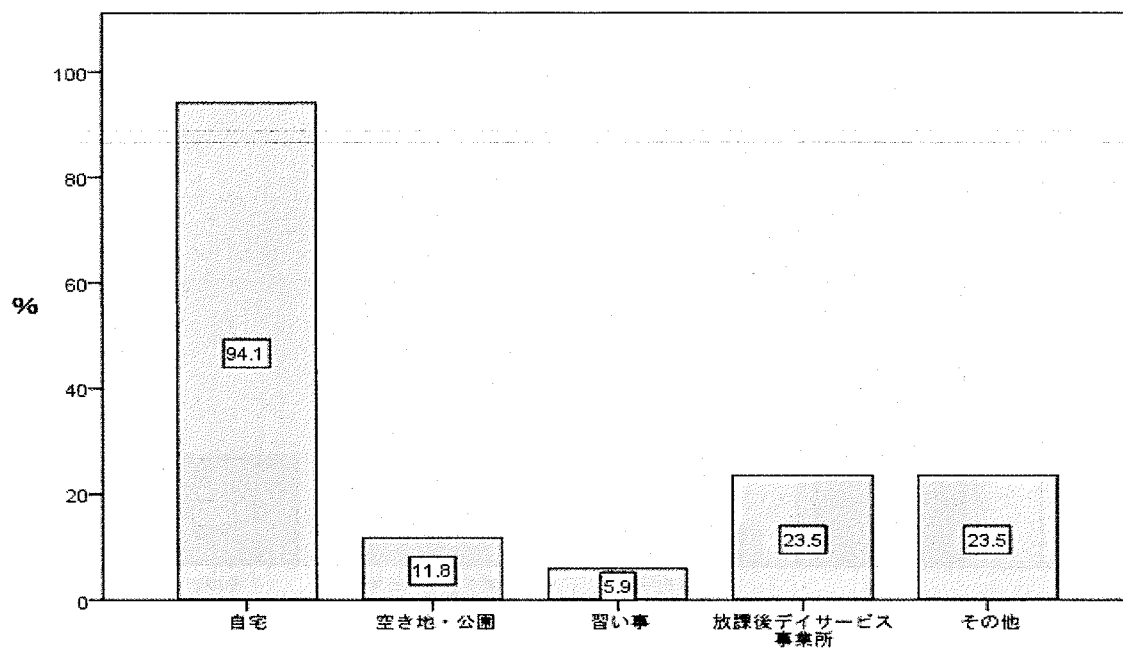
「いる/ある」が 82.4%と大半を占めているが、「いない/ない」も 17.8%と決して少ない数値である。

問 11－①. 気軽に相談できる人/場所



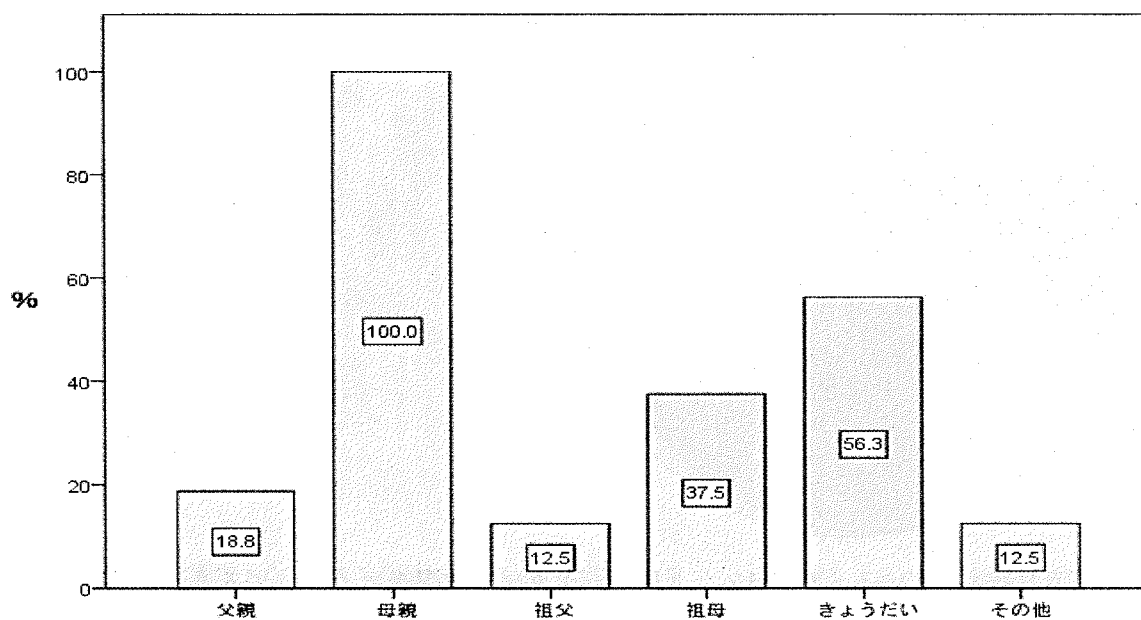
「養護学校教諭」が 71.4%と最も多く、次いで「友人・知人」が 50.0%、「祖父母等親族」35.7%と続いている。いずれも子どもが日常的に関わっている人物に相談していることが分かる。

## 問 12. 土日を過ごす場所



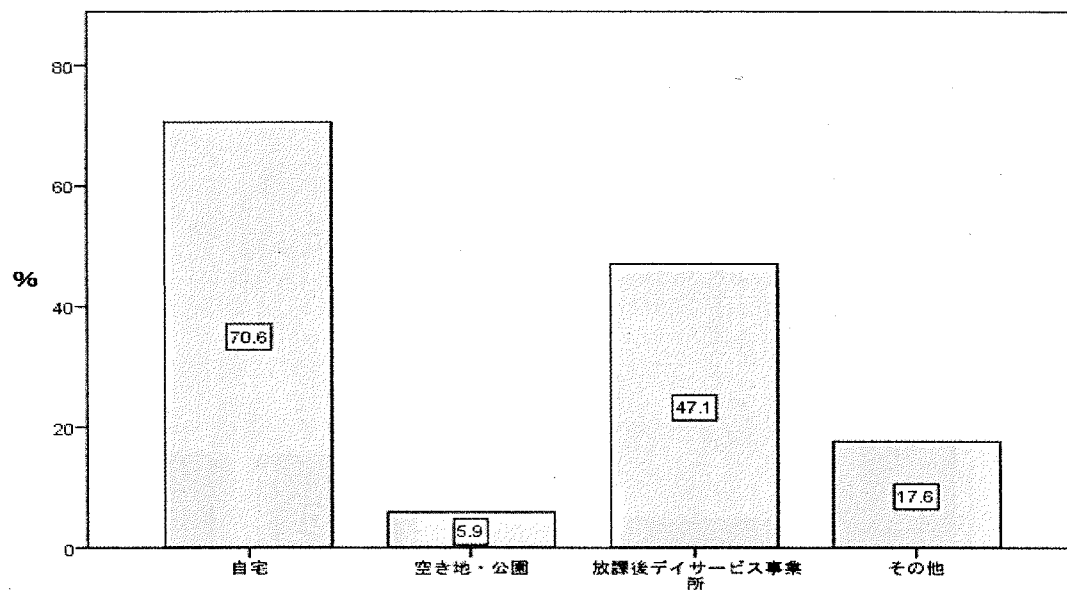
「自宅」が 94.1%と圧倒的に多く、次いで「放課後デイサービス事業所」、「その他」が、23.5%である。その他には、祖父母の家、買い物等があったがごく少数であった。

## 問 13. 土日を過ごす相手



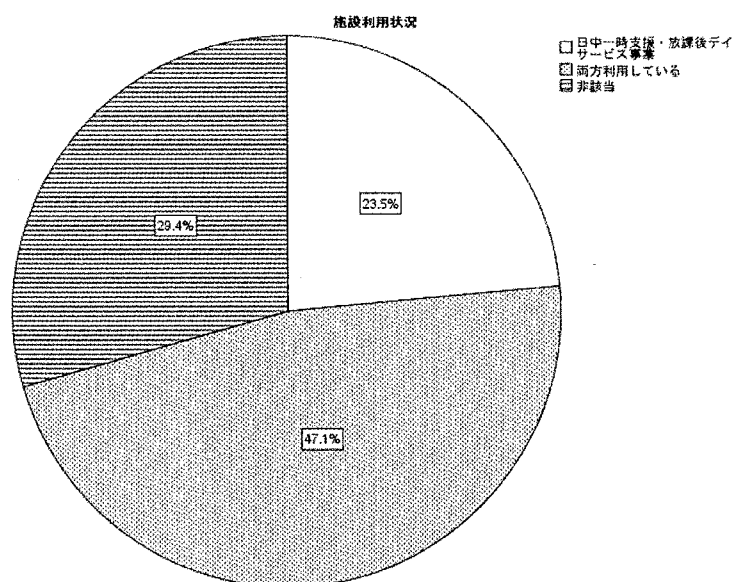
「母親」が最も多く、子育ての中心が母親であることがこの結果からも読み取れる。

#### 問14. 長期休みを過ごす場所



長期休暇を過ごす場所も土日を過ごす場所と同じく「自宅」が圧倒的に多いが、「放課後デイサービス事業所」は47.1%と土日の数値よりも高くなっていることが分かる。

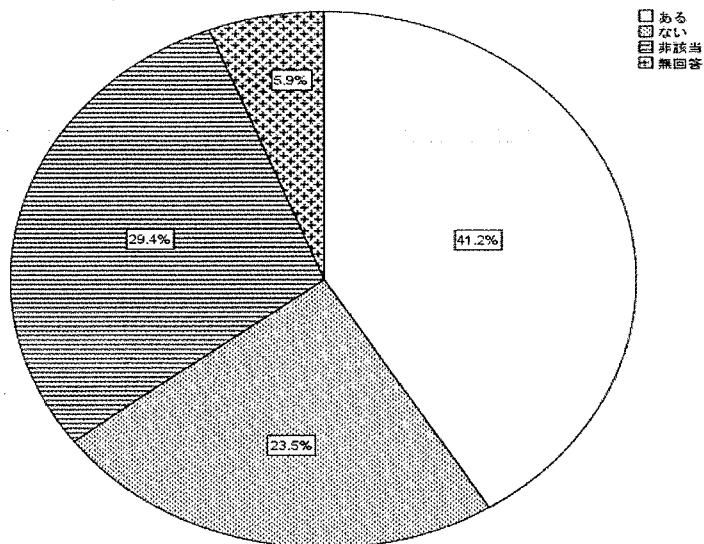
#### 問 15. 施設利用状況



「両方利用している」が47.1%、「日中一時支援・放課後デイサービス事業」が23.5%であり、放課後児童クラブや日中一時支援等の利用は多いことがわかる。しかし、両方とも利用していないという回答も多く29.4%であった。

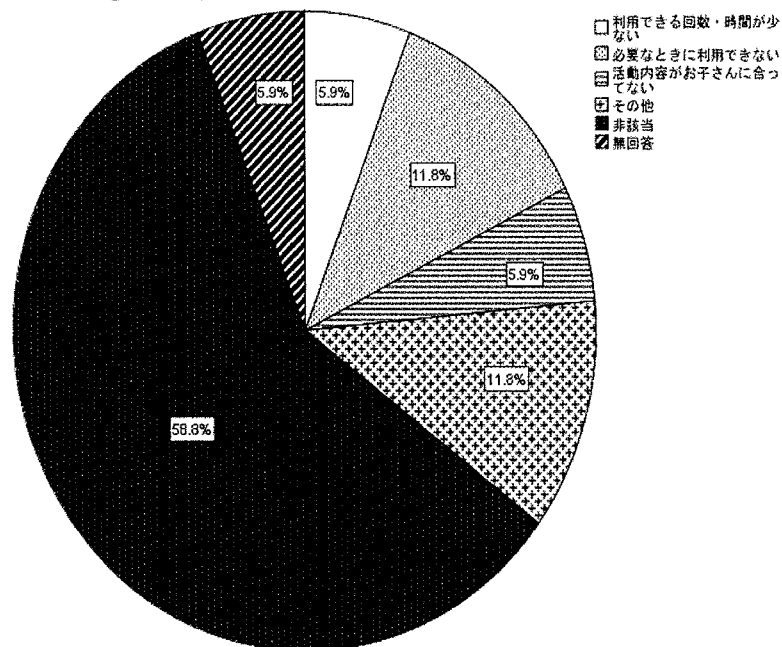
なお、放課後児童クラブ〔学童保育〕のみの利用は0%であったためグラフには記載されていない。

### 問15-① 利用していて困った点



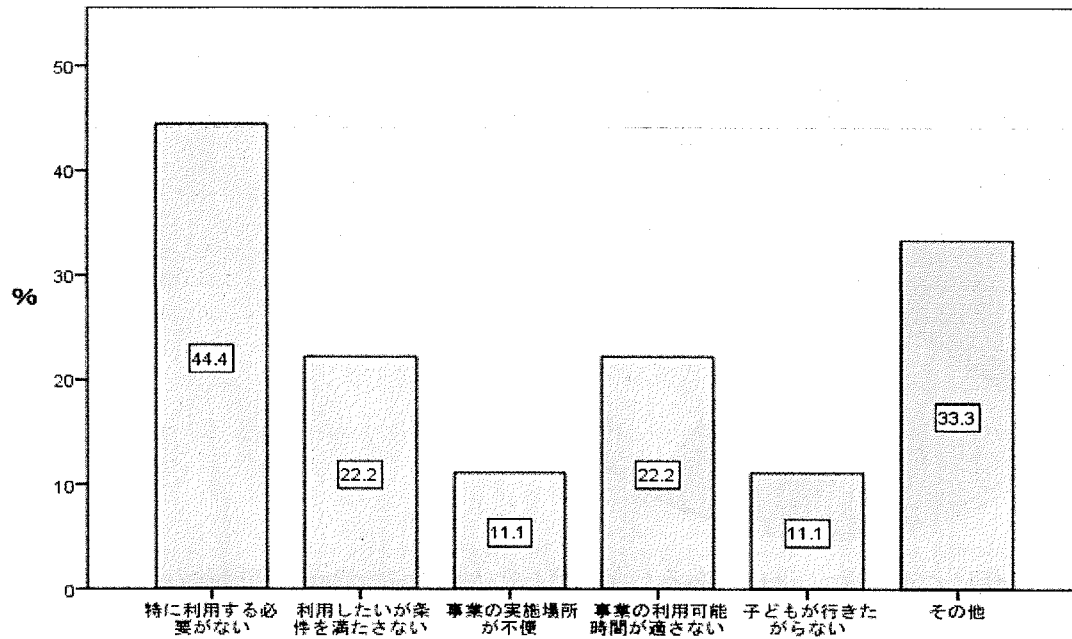
施設を利用して困ったことは「ある」と回答した人が41.2%で施設利用者の半数以上が利用時に困ったことが生じているようである。

### 問15-②. 具体的な困った内容



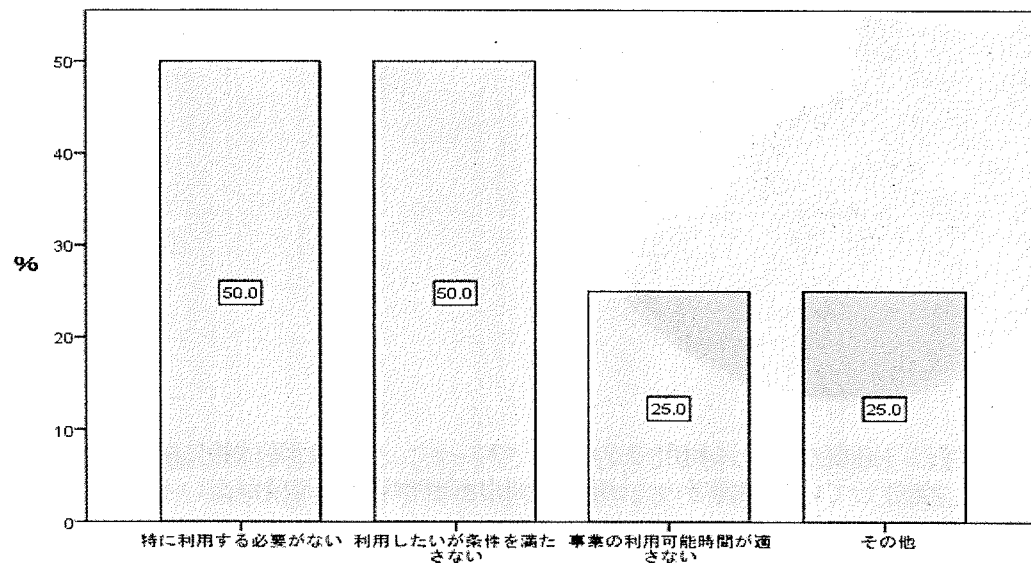
最も多い回答は「必要なときに利用できない」であった。この回答は特に就労している保護者に多く、就労している保護者の方が施設の利用時間等への希望が高いということがうかがえる。  
今後、利用時間の見直し等をする必要があるのではないだろうか。

問16. 放課後児童クラブ〔学童保育〕を利用していない理由



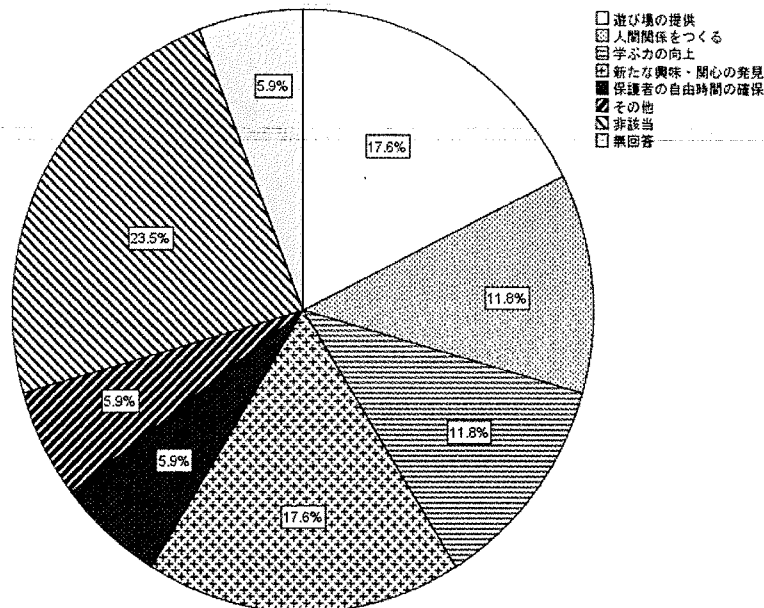
「特に利用する必要がない」が44.4%と最も多く、施設の利用を希望していない人が多いと分かるが、一方で「利用したいが条件を満たさない」、「事業の利用可能時間が適さない」が22.2%と高い数値であり、利用はしたいが施設の規定に外れてしまうため利用できないという人も多いようだ。

問17. 日中一時支援・放課後デイサービスを利用していない理由



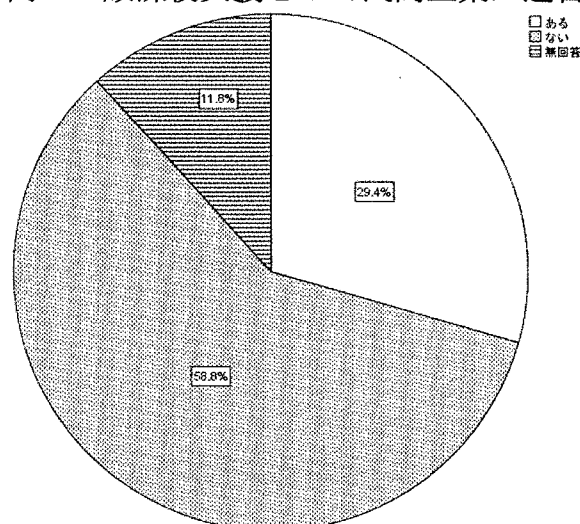
特に利用する必要がない、利用したいが条件を満たさないがともに50%をしめている。

### 問18. 放課後支援に期待すること



子どもの放課後支援に期待することは「遊び場の提供」、「新たな興味・関心の発見」が17.6%と最も多い回答となっている。問14、16の子どもの土日・長期休暇をどのような場所で過ごしているかという質問に対して、「自宅」が最も多い回答であることから、現在子どもの遊び場が限定的な空間のみで展開されているのではないかと考えられる。次いで「人間関係をつくる」、「学ぶ力の向上」が11.8%となっている。年齢が大きくなるにつれ、人との関わりが増え、勉強内容も複雑になる。新たな環境に適応いけるような支援を求めているといえるであろう。

### 問19. 放課後支援として民間企業が運営するサービスの利用の有無



民間サービスの利用は、ない 58.8%と過半数以上を占めていた。

## 資料

### 小諸市子育て支援に関するニーズ調査 調査へのご協力をお願い

私たちは、明治学院大学社会福祉学科のゼミ生です。私たちのゼミでは子どもの生活状況や子育ての現状等について日々学び、研究しております。今回は小諸市のご協力のもと、子育て支援に関するニーズ調査をさせていただくことになりました。

この調査は、小諸市の子どもの生活状況の実態を把握するために実施するものです。本調査につきましては、小諸養護学校の小・中学生のお子さんを対象とし、その保護者の皆様に回答をお願いいたします。

この調査結果を集計して集計結果を小諸市に提供させていただきます。なお、個々の回答やプライバシーに関わる内容が公表されたり、他の目的に利用されたりすることは一切ありません。

ご負担をおかけいたしますが、この調査の趣旨をご理解いただき、是非ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 8 月  
明治学院大学 社会学部社会福祉学科 中野ゼミ生  
ゼミ担当 中野敏子

#### ～ご記入にあたってのお願い～

- アンケートは、お子さんの保護者をご記入ください。
- 回答は、(○はひとつ)、(あてはまるものすべてに○)、(自由に記入) 等ありますのでその指示に従ってご記入ください。その他を選んだ場合は、それについて指示に従ってご記入ください。
- 設問によって回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きや矢印等に従って回答してください。特にことわりがない場合は、次の設問にお進みください。

\*ご記入が済まれたアンケート用紙は、お渡ししたときの封筒に入れ、封をして学校へご提出ください。

### 小諸市子育て支援に関するニーズ調査

□お住まいの地域についておうかがいします。

問1 お住まいの地区としてあてはまるものの番号1つに○をつけてください。

1. 小諸市内      2. 小諸市外

□お子さんご家族についておうかがいします。(以下「お子さん」は「在校している  
お子さん」をさします。)

問2 お子さんの性別と年齢をおうかがいします。

性別      1. 男      2. 女

年齢      (      ) 歳

問3 お子さんのごきょうだい(在校している方を含め)についておうかがいします。

きょうだいの数 (      ) 人

お子さんのごきょうだいは      1. 上にいる      2. 下にいる

問4 調査票にご記入いただいている方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答え  
ください。

1. 母親      2. 父親      3. その他 (      )

問4-① 年代をおうかがいします。 (      ) 歳代

□子どもの育ちをめぐる環境についておうかがいます。

問5 子育てを主に行っているのはどなたですか。番号1つに○をしてください。

1. 父母ともに      2. 主に母親      3. 主に父親      4. 主に祖父母      5. その他 (      )

問6 子育てを主に行っている方の就労状況についておうかがいします。当てはまる番号  
1つに○をつけてください。

1. フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)  
2. パート・アルバイト等 →問6-①へ  
3. 現在は就労していない      4. 産休・育休・介護休業中である

▼問6-① 問6でパート・アルバイト等と回答した方へおうかがいします。  
さしつかえなければ1週間、1日あたりの就労時間をお答えください。

1週あたり (      ) 日      1日あたり (      ) 時間

問6-② お子さんを見てもらえる親族・知人はおられますか。あてはまる番号いくつで  
も○をつけてください。

1. 日常的に祖父母等の親族  
2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる  
3. 日常的に子どもを見てもらえる友人・知人がいる  
4. 緊急時もしくは用事の際には見てもらえる友人・知人がいる  
5. いずれもない

□子育て環境についておうかがいします

問7. お住まいの地域で子育てをしていく中で、よかったと思う点がありますか。(当てはまる

番号すべてに○をつけて下さい)

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 子育て支援が充実している   | 2. 相談機関が充実している        |
| 3. 地域とのつながりが強い    | 4. 慣れ親しんだ土地だから        |
| 5. 友人・知人が多く住んでいる  | 6. 自然が多く、子育てに適した環境だから |
| 7. 近くに公園などの遊び場がある | 8. 特によかったとは思わない       |
| 9. その他 ( )        |                       |

問8. お住まいの地域の子育て支援サービスについての情報を何によって入手(収集)していますか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1. ちらし・パンフレット・小冊子    | 2. ホームページ・ブログ等      |
| 3. ツイッター・フェイスブック等SNS | 4. 行政からの情報(HP や広報誌) |
| 5. 回覧板               | 6. 親族・知人から          |
| 7. 情報の入手手段がない、少ない    | 8. その他 ( )          |

▼問8で「7. 情報の入手手段がない、少ない」と回答した方におうかがいします。

問8-①. どのようなサービスの情報開示があればいいとお考えですか。意見があればご自由に  
お書き下さい。

↓ 問9. あなたは、自分にとって子育てを楽しんでいることが多いと思いますか。それとも辛いと感じることが多いと思いますか。(当てはまる答えの番号1つに○をつけてください。)

- |                             |
|-----------------------------|
| 1. 楽しいと感じることの方が多い           |
| 2. 楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい |
| 3. 辛いと感じることの方が多い            |
| 4. わからない                    |
| 5. その他 ( )                  |

問10. あなたは、子育てをする上で不安や悩みなどありますか。(当てはまる番号1つに○をつけてください。)

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

▼「ある」と回答した方におうかがいします。

問10-①. 子育てに対してどのような悩み・不安をお持ちですか。(当てはまる番号すべてに○をしてください。)

1. 自分の時間がとれず、自由がない
2. 子どもがいるために、自分の楽しみを奪われているように感じる
3. 子育てにおわれ、社会から孤立するようになる
4. 子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい
5. 子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる
6. 夫婦あるいは家族の間に子育てについての考え方が違う。
7. 配偶者の子育てへの関わりが少ない
8. 子どもとのふれあいや会話が十分できない
9. 子供のしつけがわからない
10. 子どもを邪魔に感じるときがある
11. 近所に子どもの遊び友達がいない
12. 子どもの健康、性格や癖などについて心配である
13. 子どもの進路や進学のこと
14. 子育て(教育を含む)に伴う経済的負担が大きいと感じる
15. その他( )

問11. 子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人はおられますか。また、相談できる場所はおありですか。(当てはまる番号1つに○をつけてください。)

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. いる／ある | 2. いない／ない |
|----------|-----------|

▼問11で「いる／ある」と回答した方におうかがいします。

問11-①. 子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先は誰(どこ)ですか。

(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 祖父母等の親族        | 2. 友人や知人                |
| 3. 近所の人           | 4. 子育て支援施設(児童館/こもロッジ)   |
| 5. NPO法人・社会福祉法人職員 | 6. 保健所・保健サービスセンター       |
| 7. 保育士            | 8. 放課後児童クラブ(学童保育)職員・指導員 |
| 9. 幼稚園教諭          | 10. 療育機関職員              |
| 11. スクールカウンセラー    | 12. 養護学校教諭              |
| 13. 塾・習いごとの先生     | 14. 民生委員 児童委員           |
| 15. かかりつけの医師      | 16. その他( )              |

□お子さんの放課後・土日・長期休みについておうかがいします。

問 12 お子さんは土日をどのような場所で過ごしていますか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

- |           |                 |          |        |
|-----------|-----------------|----------|--------|
| 1. 自宅     | 2. 近所の空き地や公園    | 3. 友だちの家 | 4. 習い事 |
| 4. 学校(校庭) | 5. 放課後デイサービス事業所 |          |        |
| 6. その他( ) |                 |          |        |

問 13 お子さんは土日を誰と過ごすことが多いですか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

- |        |            |           |       |          |
|--------|------------|-----------|-------|----------|
| 1. 父親  | 2. 母親      | 3. 祖父     | 4. 祖母 | 5. きょうだい |
| 6. 友だち | 7. お子さんひとり | 8. その他( ) |       |          |

問 14 お子さんは長期休みを主にどのような場所で過ごしていますか。(当てはまる番号すべてに○をつけてください。)

- |           |                 |          |        |
|-----------|-----------------|----------|--------|
| 1. 自宅     | 2. 近所の空き地や公園    | 3. 友だちの家 | 4. 習い事 |
| 4. 学校(校庭) | 5. 放課後デイサービス事業所 |          |        |
| 6. その他( ) |                 |          |        |

問 15 現在、放課後児童クラブ〔学童保育〕あるいは日中一時支援・放課後デイサービス事業を 利用している方におうかがいします。

問 15 -① 利用していて困ったことがありますか。

- |       |      |
|-------|------|
| 1. ある | 2 ない |
|-------|------|

問 15 -② ▼「ある」と回答された方にうかがいます。それはどのようなことですか。(当てはまる番号1つに○をつけてください)

- |                     |                   |                 |
|---------------------|-------------------|-----------------|
| 1. 経済負担が大きい         | 2. 利用できる回数・時間が少ない | 3. 必要なときに利用できない |
| 4. 活動内容がお子さんに合っていない | 5. 対応するスタッフに不安がある |                 |
| 6. 保護者同士の関係が負担になる   | 7. 送迎の負担が大きい      |                 |
| 8. その他( )           |                   |                 |

問 16 ▼現在、放課後児童クラブ〔学童保育〕を 利用していない方におうかがいします。

利用していない理由は何ですか。(当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 特に利用する必要がない。                 |
| 2. 利用したいが条件を満たさない。              |
| 3. 事業内容が保護者の考えと異なる(事業内容に魅力がない)。 |
| 4. 事業の実施場所が不便(自宅や学校から遠い)。       |
| 5. 事業の利用可能時間が適さない。              |
| 6. お子さんが行きたがらない。                |
| 7. その他( )                       |

問 17 ▼現在、日中一時支援・放課後デイサービス事業を利用していない方におうかがいします。

利用していない理由は何ですか。(当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。)

1. 特に利用する必要がある。
2. 利用したいが条件を満たさない。
3. 事業内容が保護者の考えと異なる(事業内容に魅力がない)。
4. 事業の実施場所が不便(自宅や学校から遠い)。
5. 事業の利用可能時間が適さない。
6. お子さんが行きたがらない。
7. その他 ( )

問 18 お子さんの放課後支援に期待することは何ですか。(当てはまる番号1つに○をつけてください。)

1. 遊び場の提供      2. 人間関係をつくる      3. 学ぶ力の向上
4. 新たな興味関心の発見      5. 保護者の自由時間の確保
6. その他 ( )

問 19 お子さんの放課後支援として民間企業が運営するサービスを利用されたことがありますか。

1. ある      2 ない

問 19-①▼「ある」と回答された方におうかがいします。

利用されて良かった点は何ですか。

問 19-② 利用して困った点は何ですか。

問 20 今後、積極的に実施してほしい放課後支援についてご意見等ございましたら自由にお書き下さい。

以上でアンケートは終了です。長い時間ご協力いただきありがとうございました。

## 「現地聞き取り調査」

### 《小諸市役所教育委員会》

#### 1. 見学概要

今回私たちは、小諸市教育委員会の方に小諸市の教育政策等についてお話を伺った。

小諸市では、「次代を担う市民」と「みんなの生きがい」を育みますといった子育て、教育における政策理念のもとさまざまな施策をしており、その一つに、「梅花教育」の推進が挙げられていた。梅花教育推進の主な目的として、子どもたちが主体的に学習し自己実現していける力を養うために子どもを取り巻く環境を整備し、知・徳・体・の向上を目指すことにある。その例として「運動あそび事業」と言った就学前の子どもたちをターゲットにした事業がなされている。就学後の児童の運動あそび取り入れも現在行われているプロジェクトとの兼ね合いも考えつつ視野にいれているようだ。事業の内容をとして、子どもたちが集まり一緒に活動することでコミュニケーションの取り方」をあそび、また、身体を動かすことにより丈夫な体をつくることと言った心身両方の発達を目的にしている。障害児にも全く同じプログラムで取り組んでもらっている。その他も環境整備の一環として市役所の近くに図書館を新たに建設中である。あらゆる年齢層が利用可能な公共施設、また、生涯学習の場の建設は小諸の学習の充実に期待できる施設であると思える。特別支援教育においては特別支援学校ですで行われているプログラムや学習計画があり、これらと教育委が提案する施策の両立が困難なのではといった内容のお話があった。横割りの施策を目指し意見交換を最近開始したが、今後どのように進めるかは検討中ということであった。

#### 2. 学んだポイント

私たちは、小諸市の教育の施策の優先順位の高いところに子育ての環境整備や、生涯学習が位置づけられていることに気づいた。そこから小諸市では地域の環境・結びつきをいかに住民が心地よく生活でき、そして、学べることを重視していることを学んだ。たとえば「配慮を要する子ども資料票」と言った子どもの現在の状況についてまとめた資料、これからの情報等をもとに計画を立てていることから地域住民のニーズにできるだけ答えられるような取り組み等が挙げられる。しかし、小諸市は現在人口が減少傾向にあり、また、一人当たりの所得が少ないため市役所においても財政危機に陥っている状態である。小諸市は後数年のうちに人口が今よりも一万人減少するという見解もあり、これに対してどのような対策をとるかが、小諸市の大きな課題の一つであると学んだ。これは、小諸市だけではなく、都市部以外の地域でも同じことが言えるのではないだろうか。

#### 3. 考察

○現状、人口減少が深刻化により財政が悪化しているとの話があったため、財政を使わずともできる人口減少対応策を講じるべき。

例として、住民のボランティアを募り市の自慢できる食材や文化を活かしたイベントを開催し小諸市の魅力を発信することもひとつの策である。

○小諸市の情報がより広範囲に広がるようネット等による情報普及の必要性。

SNSを有効活用し、若者が小諸市の情報を簡単に入手できるようにすればと考えた。

#### 4. 感想

○長野県が教育に力を入れているというのは聞いたことがあったが、今回市役所で話を伺ってそれを実感した。ただ闇雲に市が抱えている課題に着手するわけではなく、優先順位

を決め、小諸市の住民がよりよい生活を送るために必要なことは何かを見極めたうえで、活動している。多くの地方自治体が抱える人口減少問題にも、ただ人を増やすことを目指すのではなく、まずは人をこれ以上減らさない街づくり、そこから人口増加につなげていくという努力をしている。人口減少や障害者福祉の問題は小諸市に限った問題ではないので、これからどのような策を講じていくのかに着目し、それをほかの地域に応用するとしたらどのようにすべきかなどを学んでいきたい。

○小諸市市役所に行って話を聞かせていただき、非常に勉強になった。誰もが安心して暮らすことのできる小諸市を目指して今の小諸市は市民や行政、各団体と共に地域福祉を推進します。「小諸に住んで良かったと思うことは何ですか？」という話を聞いていて、人のつながりだけで、豊かに幸せに暮らせることを知った。お金で買えないものを感じられて、それは小諸市の魅力だと思う。仕事＝お金というだけでなく、時を楽しむゆとりを持てるようになったらと思った。“自分を信頼して生きる”。そんなひとりひとりのエネルギーが、いつか大きな渦になって、次世代の人たちが安心して幸せに暮らせる小諸市になればいい。

○市役所の人たちの話を聞いていて、小諸市の住民の人たちが快適に生活するためにこれまでたくさんの苦勞をしてきたのだなといった気持ちが伝わってきた。考えてみれば一人が快適に生活できるだけでも大変だと言うのに何万という人たちの幸せのために活動している市役所の人たちを見ていてとても感動した。自分も教師になったら自分の学校の生徒が安全に楽しく生活できるよう頑張らなくてはと思った。

○地方と呼ばれる地区では、人口減少が深刻な問題になっており、そのことから様々な問題が生じていることに気づいた。特に財政面の悪化により、福祉や教育などにも影響が出てしまう。そんななか小諸市は福祉や教育の面に積極的に取り組み、運動遊びなどの独自の政策にも力を入れていた。しかし、このままでは人口減少はくい止められないというお話もあった。この問題は小諸市だけの問題ではないと思われるので、今後どのようにして対策を講じていくのか注目したい。

(新井理沙子・堀内清士朗・孫遠偉・吉村春香)

## 《こもロッジ》

### 1. 見学の概要

職員の方から、こもロッジの年間・月間の行事についてのお話や、小諸市におけるこもロッジの役割・利用状況などについて伺いました。その後、施設を見学し実際に利用している子どもたちの様子を見学することもできた。

### 2. 学んだポイント

こもロッジでは小諸市在住または小諸市内に通園している、0歳～就学前の乳幼児またはその保護者と、小学校～高校生までの生徒が利用できる児童館と児童クラブの機能を併せ持った施設である。月間・年間を通して多くのイベントが開催されており、乳幼児を対象としたイベントでは最大70組の親子が参加した。児童クラブとしては小諸市内の2校の小学校から児童を受け入れており、その人数は50人～60人に上る。保護者の教育相談や就労相談など、相談機関としての役割も担っている。

### 3. 考察

こもロッジ周辺または小諸市内の多くの子どもの遊び場になっているが、小諸市内に通園・通学している小諸市外在住の子育て世帯や、こもロッジから遠い地域に在住している子育て世帯にどのような支援を提供していくか、が課題となる。送迎のサービスはそういった世帯に対し有効であると考えられるが、資金の問題から厳しいという場合は、高齢者

の運転ボランティアを募り、高齢化の進む小諸市の現状を逆にとるような策も考えられるのではないかな。

養護学校（特別支援学校）に通う生徒の利用について、私たちが小諸市内の養護学校に行った調査結果から、障害児の放課後過ごす場所は放課後デイサービスや知人・親族の家または自宅などが多く、こもロッジを利用している生徒が極めて少数である現状があることを確認した。健常児と同じように障害児も多くの子どもと関わり、ルールを学んだり、人間関係を形成したりすることが大変重要である。障害児と健常児が同じ場所で共に学び、お互いを理解していく放課後支援をこもロッジが率先して提供してほしい、と考えた。

利用時間について、乳幼児のプログラムが午前の時間帯に多いことや、施設の利用時間も午後4時までと早い時間で終わってしまうことから、決められた時間内に利用できない保護者もいるのではないかな、と考えた。プログラムに参加したい、子育てにこもロッジを活用したいが利用時間が合わない、という保護者に対する支援も必要なのではないかな。

#### 4. 感想

〇こもロッジに行くと、まず施設の充実さに驚いた。木で作られた建物は温かみがあり、そこにいただけでわくわく楽しくなるような雰囲気があった。音楽室も防音設備はもちろん、たくさんの楽器があり高学年の子どもにも使いやすい。また乳幼児も広々と利用できる部屋があり、安全面も非常に注意されていて保護者にとっても安心して利用できる感じた。

〇こもロッジで見た、手の凝った手作り遊具の数々は、その遊具の大きさや仕掛けの点で、自宅にはないものばかりで、私たちの目にも楽しそうに見えた。子供たちも大勢で遊具やドッジボールが出来て楽しそうであった。その姿が微笑ましかった。自分の幼少期には、自分の在住している地域でこのような施設を利用したことがなかったので、このこもロッジの設備、環境が羨ましくもあった。

〇施設の雰囲気から、落ち着きも楽しみも感じさせられた。木材がすぐ目に入り、広々とした空間は温もりがある。職員も、エプロンを着用している姿などから、子どもたちが安らぎを覚える雰囲気作りを行っていると感じた。子どもたちと話した際も、おもちゃの遊び方や施設の構造などを率先して案内してくれた。これらから、身体的にも精神的にも伸び伸びと遊んでいると感じた。

（上小牧瑞奈 酒井真有子 松本潮美 ）

### 《社会福祉法人 小諸学舎》

#### 1. 概要

社会福祉法人 小諸学舎は障害者支援施設／障害福祉サービス事業である。サービス形態は主に4つある。第1に施設入所支援を行っている。受け入れ人数は50名、全室個室で10人単位のユニットになっている。一人ひとりのプライベートな空間を大切にしながら、ほかの利用者とともに共同生活を楽しく生きがいのあるものとして築いていけるよう、作業や文化活動等を行っている。第2に生活介護を行っている。受け入れ人数は70名、家庭より通っている。通所や居住の利用者が一緒に作業や生活などの体験をしながら、社会性を養い自分の生活の幅を広げている。第3に地域生活日中支援を行っている。在宅の利用者（児童）に日中一時支援事業とタイムケア事業を通して、必要な支援を行っている。第4にショートステイを行っている受け入れ人数は5名、集団生活の体験のためや家庭の都合等のより短期間家から離れてほかの利用者と一緒に生活をする。その他にも地域の人々との交流ができる場所（研修室、図書室、ボランティア室、宿泊室）などがある。

## 2. 考察

一人ひとりの個性を尊重し、利用者自身の持つ力を十分に発揮することができる場所であると思えた。しかし現在、小諸学舎では、年間 100 日程度 30 人ほどの実習生を受け入れているが、施設の位置、アクセス、近隣に大学がない等の理由により学生ボランティアスタッフや定期のボランティアスタッフが多くはない。

少ない時間の中で見学させて頂いたため、施設の現状を十分に把握できていない部分があるが、スタッフの増員が必要ではないかといえる。増員することによって、より利用者の余暇活動が充実し、豊かな生活を送ることができるのではないだろうか。また、グループ活動を行う場合でも全員が一緒に活動をするのではなく、一人ひとりの年齢や障害の度合い、希望状況に合わせた活動を行うことがより豊かになるのではないかと考える。

## 3. 感想

施設の方のお話の中で「誰しものちを守る場、存在を守るための場が必要である」という言葉が印象に残った。地域の中において、存在を肯定していく受け入れの土台が必要であると実感した。小諸学舎はそのような取り組みを実践している場所だと思えた。そして障害に囚われることなく、利用者自身の人生を自ら考えていく場がどこの地域も必要不可欠なのだと確認する機会となった。また、自然豊かなで、縛られることなく、自由にゆくりと自分の人生について考えることができる環境であると感じた。

(酒寄茜、佐藤環、星野玲奈、徳田一磨)

## 《小諸養護学校》

### 1. 見学概要

小諸養護学校の現状と教育の特徴についての説明、質疑応答をした後、校舎内・寄宿舎の見学を行った。

### 2. 学んだポイント

小諸養護学校は小学部～高等部(訪問教育、重度重複障害も含む。)からなり、生徒数 217 名である。(教職員 136 名) 地域の特別教育センターの役割を目指し、教育相談、諸検査、体験学習、研修会、学校公開、教材や情報の提供等を実施している。教育目標は「あかるく、すなおに、たくましく～自分らしく豊かに生きる児童生徒を育てる～」である。

小諸養護学校は小諸市のみならず、佐久市や軽井沢、御代田など広範囲から児童生徒は通学をしている。小学部～高等部のみの教育以外にも訪問教育や医療的ケアの必要な重度・重複障害のある児童生徒の教育にも力を入れている。

通学については、多方面から通っている児童生徒もいるため、スクールバス(3台)、保護者の送迎、自力通学という3つの手段で通学している。自宅が遠方の生徒のために寄宿舎も整備し、小学部～高等部までの計 29 名が生活している。

校舎見学を行い、教材教具の工夫点を発見した。例を挙げると児童生徒たちが作ったアスレチックの遊具や、視覚教材として iPad の活用。情報の視覚化としてマークや教室表示等の工夫が見られた。

大会やイベント前は放課後支援を行うこともあるが、基本的には放課後支援の活動は行っていない。そのため、下校後に放課後支援施設を利用している児童生徒も居る。

### 3. 考察

アスレチックの遊具や視覚教材等から最先端の教育を行っている印象を受けた。

遊具で遊んでいる子どもたちは非常にのびのびと過ごしているようであった。

校舎内は視覚的に物事が理解できるよう教室表示や教材を置く位置等が一目で理解出来るような環境に整備されていた。また寄宿舍では、生活練習室も完備されており、このことから、児童生徒の将来の生活も考えていることが窺える。

校舎や寄宿舍は多くの工夫が見られたが、一つ一つの教室内あるいは寄宿舍の個人の生活スペースが十分な場所を確保出来ていない印象も受けた。

つまり、養護学校のニーズが増えるとともに児童生徒数も増加し、教室の数が充分でないという現状である。現在、小諸養護学校は市外の学校に分教室も開校しているが、今後更に推進していく必要があると考える。

小諸市では教育委員会によって子どもセンターを所轄しているため、学校との連携が取れているということが強みであるということであった。また、養護学校は地域の特別支援センターの役割として情報提供も重視している。しかし、今回の小諸市訪問とともに実施したアンケート調査の結果から、地域の子どもセンターの情報はどのような手段で入手しているかという質問に対し、『情報手段がない・少ない』と回答される人が最も多かった。このことから、学校の情報提供が現状のままでは不十分ではないかと考えられる。今後はもっと学校の広報・たより、またホームページに子ども支援センターのリンクを付ける等、積極的な情報提供が求められる。

(榎本くるみ 香山朋範 斉藤佳緒里)



## [まとめと提言]

### 《小諸市の子育ち・子育て支援の特徴》

以下の4つの特徴を見出すことができた。

○市の教育委員会が児童館や児童クラブなどの子どもセンターを所轄している。

大半の地域では児童館は児童福祉法において規定があるため、教育委員会の所轄に置かれることは少ないといえる。しかし小諸市では、教育委員会が児童館も所轄することによって、学校との連携・情報共有がしやすく、強みになっているといえる。

○特別支援教育を重視している。

長野県全体に教育に力を入れてきた歴史があるが、小諸市では特別支援教育の歴史も長く、1951年に市内の小学校に特別学級が開設されて特殊教育の原点とされており、それ以降、市は特別支援教育を大切にしている。

○児童館でインクルーシブな環境への取り組みを進めている。

市の児童館では、「障害を持つ人たちも普通に一緒に生活していることを当たり前」と考えており、障害の有無に関係なく子供たちは利用している。清掃スタッフとして障害者の雇用も積極的に行っている。

### 《ニーズ調査・現地調査から見てきたこと:提言》

○財政を使わずに人口減少対策を講じる必要性

現状、人口減少が深刻化により財政が悪化しているとの話があったため、財政を使わずともできる人口減少対応策を講じるべき。例として、住民のボランティアを募り市の自慢できる食材や文化を活かしたイベントを開催し小諸市の魅力を発信することもひとつの策である。

○小諸市の情報がより広範囲に広がるようネット等による情報普及の必要性

SNSを有効活用し、若者が小諸市の情報を簡単に入手できるようにすればと考えた。

○自然が多く子育てに適した環境の維持

小諸市及び周辺地域の特徴としては、アンケートより子育てを行う上で、慣れ親しんだ土地であるため、自然が多く子育てに適しているとわかる。今後もこうした意向を反映できる環境の整備を維持していく必要がある。

○将来への不安や子どもの育ちの不安への対応

子供の進路や進学などの子供の将来について、不安や悩みを持つ親が多い。また子供の性格や癖のついて悩みを持つ親も同様に多い。学齢期に将来を見通せる支援の体制は充実していく必要はある。

○学齢期後の相談先の確保

保護者の相談先は学校教員がもっとも多く、学校の相談窓口は充実しているといえる。しかし、その他の相談機関の活用が少ないことから、相談機関が十分に機能しているのかという疑問は残る。とくに、学齢期以降の相談先を考えると、学校教員に集中していることで良いかを検討していく必要がある。

○「遊び場」の確保と送迎負担の軽減

現状では、子どもたちが過ごしている場は自宅が大半であり、限定的な場所で過ごし

ている。今後の小諸市及び周辺地域ではこれまで以上に「遊び場」の提供についての検討が求められているといえる。

具体的には、子育て支援施設（児童館等）を増やす、または今ある施設の受け入れ体制を広げるなどである。とくに、遊び場の提供には、送迎の負担という課題が関連してくる。負担の軽減といった取り組みも行う必要がある。

#### ○きめ細かい支援のためのスタッフの増員

スタッフを増員することによって、より利用者の余暇活動が充実し、豊かな生活を送ることができるのではないだろうか。

#### ○廃校の校舎の活用

養護学校の近隣に廃校校舎があるのなら、その校舎を有効に活用できるのではないだろうか。もし活用できるのであれば、生徒数に合わせて校舎を増設するよりも、今ある資源を有効利用できる。

#### ○子ども支援センターの情報やリンクを付ける等、積極的な情報提供

教育委員会によって子ども支援センターが所轄されており、学校との連携が取れていることが小諸市の子育て支援の特徴のひとつであった。

しかし、今回の小諸市訪問とともに実施したアンケート調査の結果から、地域の子どもセンターの情報はどのような手段で入手しているかという質問に対し、『情報手段がない・少ない』と回答される人が最も多かった。このことから、学校の情報提供が現状のままでは不十分ではないかと考えられる。今後はもっと学校の広報・たより、またホームページに子ども支援センターの情報やリンクを付ける等、積極的な情報提供が求められる。